

PDF issue: 2025-07-11

縫製業の中国人技能実習生における日本語習得と社 会的諸関係に関する実証的研究(2)

浅野, 慎一

(Citation)

神戸大学発達科学部研究紀要,9(1):167-196

(Issue Date)

2001

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCDOI)

https://doi.org/10.24546/81000461

(URL)

https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000461



神戸大学発達科学部研究紀要 第9巻第1号 2001

縫製業の中国人技能実習生・研修生における 日本語習得と社会諸関係に関する実証研究(2)

佟 岩* · 浅野 慎一**

A Research Study on the Chinese Trainees and the Skill Student Apprentices about the Clothing Manufacturing in Japan: Their Japanese Acquisition and the Social Relations (Part 2)

TONG Yan and ASANO Shinichi

第3章 来日後の日本人との交流・社会諸関係

さて次に、日本語習得にとって現実に最も大きな意味をもつ、日本人との日常的交流・社会諸関係の実態をみていこう(表 $3-1\sim3$)。

第1節 社会諸関係の構造

まず、対象者の日本人との関係は、総じてあまり密接とはいいがたい。

「毎日、話をする日本人がいる」人は、日本人と一緒の職場で研修・技能実習を受けているにもかかわらず、62.2%にとどまる。「困ったとき、相談できる日本人がいる」人は37.0%、「何でも気楽に話せる日本人がいる」人は23.3%と一層少ない。しかも、そうした日本人が「いる」と答えた場合も、「毎日、話をする日本人」は71.8%が10人未満、「困ったとき、相談できる日本人」は81.9%が5人

表 3-1 日本語会話能力と社会諸関係	<u> </u>
日本語会話 Aランク Bランク Cランク]	Dランク その他 NA 計
毎日会話職場 10(90.9) 66(62.3) 78(73.6)	9(26.5) $0(-)$ $5(41.7)168(62.2)$
他 1(9.1) 3(2.8) 8(7.5)	1(2.9) 0(-3) 2(16.7) 15(5.5)
	25(73.5) $1(100.0)$ $7(58.3)102(37.8)$
相談相手職場 3(27.3) 37(34.9) 52(49.1)	7(20.6) 0(-) 1(8.3)100(37.0) 0(-) 0(-) 7(2.6)
他 1(9.1)0(-)6(5.7)	27(79.4) 1(100.0) 11(91.7)170(63.0)
なし 8(72.7)69(65.1)54(50.9)2 気楽に話職場 1(9.1)15(14.2)21(19.8)	8(23.5) 0(-) 0(-) 45(16.7)
7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	0(23.3) $0(-3)$ $1(-3.3)$ $23(-8.5)$
他 3(27.3) 6(5.7) 13(12.3) 1 なし 8(72.7) 87(82.1) 74(69.8) 2	26\(\cappa_76.5\) 1\(\cappa_100.0\) 11\(\cappa_91.7\)207\(\cappa_6.7\)
社会関係 1 層 3(27.3) 19(17.9) 32(30.2)	
社会関係 I 層 3(27.3) 19(17.9) 32(30.2) II 層 2(18.2) 21(19.8) 23(21.7) III 層 5(45.5) 30(28.3) 27(25.5) IIV層 1(9.1) 36(34.0) 24(22.6) 1	8(23.5) 0(-) 1(8.3) 63(23.3) 5(14.7) 0(-) 1(8.3) 52(19.3) 2(5.9) 0(-) 3(25.0) 67(24.8)
11	5(14.7) 0(-) 1(8.3) 52(19.3) 2(5.9) 0(-) 3(25. 0) 67(24.8) 19(55.9) 1(100.0) 7(58.3) 88(32.6)
	19(55. 9) 1(100. 0) 7(58. 3) 88(32. 6)
計 11(100.001)301K0.001)301K0.001)11	<u>34(100, 0) 1(100, 0) 12(100, 0)270(100, 0)</u>
資料:実態調査より作成	10. 5~1. 宝林 八宝远照成上7日
注:日本語会話:Aランク=日常会話に不自由し	ない。Bランク=直接、仕事に関係する日 ・買い物など、簡単な会話ができる。Dラ
本語なら理解できる。Cランク=あいさつ	・貝の物など、簡単な伝話ができる。ログ
カラーはどんと芸語ができない。 毎日会話:「毎日、話をする日本人」は、研	攸失職場。その他にいますか
毎日会話:「毎日、話をする日本人」は、研 相談相手:「困ったとき、相談できる日本人 気楽に話:「何でも気楽に話せる日本人」は、	」は、研修先職場・その他にいますか。
気楽に話:「何でも気楽に話せる日本人」は	、研修先職場・その他にいますか。
社会関係: I 層=何でも気楽に話せる日本人	がいる。Ⅱ層=凩ったとき、相談できる日
本人がいる(I層を除く)。皿層=毎日、	がいる。Ⅱ層=困ったとき、相談できる日 話をする日本人がいる(I層・Ⅱ層を除く)。
IV層=上述の関係がすべて「いない」。	

^{*}関西学院大学講師·非常勤

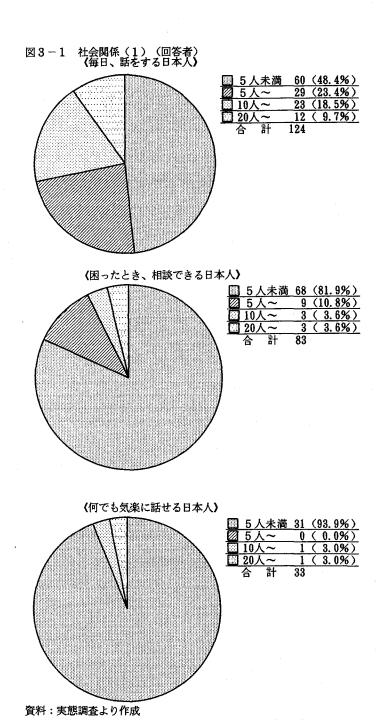
(2001年4月25日 受付) 2001年5月18日 受理)

^{**}神戸大学発達科学部社会環境論講座

未満、「何でも気楽に話せる 日本人」も93.9%が5人未満 といずれも少ない (図3-1)。 「毎日日本人と一緒に仕事を しているが、日本人は皆忙し く、つき合えない」、「普段、 日本人と殆ど付き合いはない。 接触している日本人は、会社 の3人だけ。宿舎に戻るとみ んな中国人だ。近所の日本人 も全く知らない。心の話は中 国人どうしで言う」、「日本人 と殆ど交流はない。会社の日 本人には、私達の生活や仕事、 学習に関して、もっと関心を 寄せてほしい」といった声も ある1)。

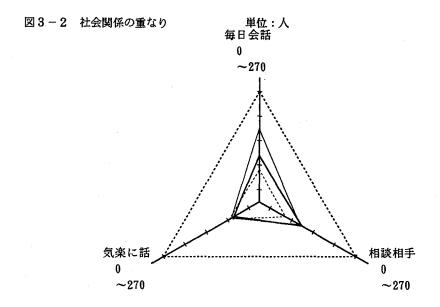
また、「この半年間、言葉・日本語のことで困ったことがある」人の中で、その時の相談相手としては、中国人の研修生・技能実習生仲間をあげる人が73.7%と最も多く、職場の日本人をあげる人は34.2%にとどまる。

「日本人との交流に満足しているか?」という質問に対しては、「もっと日本人と交流したい」が59.3%と、「今のままで満足」や「日本人との交流は減らしたい」を大きく上回る。具体的には、「日本語の会話とヒヤリングのレベルを高めるためにも、日本



人と交流するチャンスを作ってもらいたい」、「日本人ともっと交流したい。そうすれば仕事だけでなく、日本の社会・経済・文化も理解できるようになると思う」、「できれば日本人との交流、友誼をもっと増進してほしい。そうすれば、私達は日本語がもっと上手にできると思う」等の声がある。

そして、こうした日本人との社会諸関係の重層構造を概括(図3-2)すると、まず「何でも気楽に話せる日本人がいる」人は、その多くが「困ったとき、相談できる日本人」や「毎日、話をする日本人」も持ち、いわば最も稠密な社会関係を有している(以下、 I 層と呼ぶ)。これに次ぎ、「何でも気楽に話せる日本人」はいないが、「困ったとき、相談できる日本人」がいる人は、その多くが、「毎日、話をする日本人」も有している(同じく、I 層)。さらに、「何でも気楽に話せる日本人」も「困っ



毎日会話	相談相手	気楽に話	
一毎日会話 168	94	55	
一相談相手 94	100	48	
気楽に話 55	48	63	
全体計 270	270	270	

資料:実態調査より作成。 注:毎日会話=毎日、話をする日本人がいる。相談相手=困ったとき、相談できる日本人がいる。 る。気楽に話=何でも気楽に話せる日本人がいる。

表 3-2 日本語会話能	力と社会諸関係((回答者)		単位:人(%)
日本語会話 Aラン	/ク Bランク	Cランク「D	ランクーその他	NA 計
	33, 3) 50(69, 4)	50(65,8)2	7(79.4) 0(-)	4(100, 0)133(68, 9)
- 50000m くり会話 1(1	16. 7) 19(26. 4)	27(35.5)	3(8.8) 0(-)	0(-) 50(25. 9)
っ決ゆっくり会話 1() た方だれかに通訳 2()	33. 33 5 6. 93	9(11.8)	3(8.8) 0(-) 8(23.5) 0(-)	1 (25. 0) 25 (13. 0)
とは解決不能 1()	16.71 8 17.11	9(11.8) 2(2.6)	4 (11.8) 1(100.0)	0(-) 16(8.3)
きでの他して	···· 1	i} i i i i i i i i i i i i i i i i i i	4(11.8) 1(100.0) 0(-) 0(-)	
F 6(10	იი ი√ 75/106 ñ √	76/100 04 2	ăčina a4 - ĭčina a 5	4(100.0)193(100.0)
7 W P P P P P P P P P P P P P P P P P P	60. 04 (2) 100. 04	10\100. 44 o	2>100.04 1>100.04	
他不够为日本八 3、	50.0) 22(31.9) 66 7) 55(79 7)	51 55. 14	6(18.8) 0(-)	3(75.0) 65(34.2)
	66. 7) 55(79. 7)	51 65. 3 2	65 81.33 [5100.03	3 75. 0 140 73. 7
相A大家さん 0(手 その他 0(- 1 10 - 1		0(-3) 0(-3)) 0(-) 1(0.5)
手 その他 0(<u>-) 3(4.3)</u>	8(10.3)	1(3.2) 0(-)	0(-)12(6.3)
計 6(16	<u> </u>		2(100.0) 1(100.0)	4(100.0)190(100.0)
交もっと交流希望 8(流今のままで満足 2() 満交流減らしたい 1(72. 7) 62(58. 5)		5(44.1) 0(-)	6(50.0)(160(59.3)
流今のままで満足 2 ()	18. 2) 22(20. 8)	24(22.6)	2(5.9) 0(-)	1 2(16.7) 52(19.3)
次もっと文侃布室 0() 流今のままで満足 2() 満交流減らしたい 1(9.1) 2(1.9)	1(0.9)	2(5.9) 1(100.0)	0(-) 7(2.6)
足その他 00	- 3 3 2 8 1	8(7.5)	$(2)^{2}(5.9)(6) = (2)^{2}$	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
$\widetilde{N}\widetilde{A}$ \widetilde{O}	- 1 177 16.01	4(3.8) 1	$\tilde{3}$ $\tilde{38}$ $\tilde{38}$ $\tilde{38}$ $\tilde{36}$ $\tilde{36}$	3 4 33. 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3
計 <u></u> 1Ĭčī	nn n 11862188 81	<u>เบฐราบบู. บูส สู</u>	ĂZTŎŎ ĂĂ ĬZTOO O	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
相談・言葉 4(66. 73 45 73. 83	41 67. 23 2	6(89.7) 0(-	1 17/157 1 (150/175 7 5
相談・信葉 100				1 (14.3) 16 (9.7)
相談・言葉 4(0 話相手中国がいい 0(がいな機会なし 2(3		5(8. 2)	3(10.3) 1(100.0) 6(20.7) 0(-	1 (14. 3) 16 (9. 7) 2 (28. 6) 46 (27. 9)
がいな機会なし 2(33. 3) 16(26. 2)	20(32. 8)	$\{0, 0, 7\}$	2 28.6 46 27.9
い理田にの他 以	/ U(_ /		0(-) 0(-)	$0 \leftarrow 1 \leftarrow 0.6$
計 6(1)	<u>(0.001)18 (0.00</u>	61(100.0) 2	<u>9(100.0) 1(100.0)</u>	7(100.0)165(100.0)

資料:実態調査より作成
注:日本語会話:Aランク=日常会話に不自由しない。Bランク=直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。Cランク=あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる。Dランク=ほとんど会話ができない。
困ったとき:解決方法:漢字・身振り=漢字を書いたり、身振り手振りで伝えた。ゆっくり会話=ゆっくり何度も話し合って伝えた。だれかに通訳=だれかに通訳してもらった。解決不能=解決できず、わからないままにすごした。相談・話し相手がいない理由:言葉・日本語の問題。中国がいい=相談相手・話し相手はやはり中国人の仲間の方がいい。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。機会なし=日本人と深く知り合うチャンスが少ない。

たとき、相談できる日本人」もいないが、「毎日、話をする日本人」だけは確保している人がいる(同じく、Ⅲ層)。そして最後に、そうした社会諸関係をいずれももっていない人がいる(同じく、Ⅳ層)。 I 層は全体の23.3%にとどまり、Ⅱ層が19.3%、Ⅲ層が24.8%、Ⅳ層が32.6%と最も多い。

そしてこうした社会諸関係を豊かにもっと日本人と対象流をしている対象流を日本人と日本人となり、「もっと日本人的態度にない」という積極的習得が没に、実際の日本人との交流」が相対に、国本人とのでは、困場の日本人に、「職場の日本人とを表している。すなわち、「自己を表した」とといるといい。

	関係の厚さと日本語		単位:人(%)
社会関係 困 解 漢字・身振り	I層 II層 30(71.4)32(74.	4) 23(51.1)	IV層 計 48(76. 2)133(68. 9)
の決ゆっくり会話	30(71.4) 32(74. 15(35.7) 12(27.	4) 23(51.1) 9) 14(31.1)	9(14.3) 50(25.9)
ったゆっくり会話 た方だれかに通訳	3(7. 1) 4(9. 1(2. 4) 3(7.	9) 14(31.1) 3) 5(11.1) 0) 7(15.6)	9(14.3) 50(25.9) 13(20.6) 25(13.0) 5(7.9) 16(8.3)
と医解決小能] [(2.4) 3(7.	9) 14(31. 1) 3) 5(11. 1) 0) 7(15. 6) 1(2. 2)	5(7.9) 16(8.3)
きその他	1(2.4) 0(- 42(100.0) 43(100.	0) 45(100, 0)	0(-)2(1.0) 63(100.0)193(100.0)
相一職場日本人			63(100, 0)193(100, 0) 6(10, 3) 65(34, 2)
談M中国研修生	1 21(46, 7) 30(75,	5) 15(31.9) 0) 35(74.5) 5) 0(-)	54(93. 1)140(73. 7)
相A大家さん	0(-) 1(2.	5) 0(-)	0(-)1(0.5)
手一その他	2(4,4) 0(-	5(10.6)	5(8.6) 12(6.3) 58(100.0)190(100.0)
があっとな法を見	45(100.0) 40(100. 43(68.3) 34(65.	0) 47(100.0) 4) 45(67.2)	58(100, 0)190(100, 0) 38(43, 2)160(59, 3)
交もっと交流希望 流今のままで満足	43(68. 3) 34(65. 12(19. 0) 12(23.	4) 45(67. 2) 1) 12(17. 9) 9) 2(3. 0)	16(18, 2) 52(19, 3)
満交流減らしたい	1 (K — X K L	9) 2(3.0)	4(4.5)17(2.6)
足その他	2(3.2) 0(-		4(4.5) 13(4.8) 26(29.5) 38(14.1)
N A	6(9.5) 5(9. 63(100, 0) 52(100.	6) 1(1.5) 0) 67(100.0)	26(29. 5) 38(14. 1) 88(100. 0)270(100. 0)
実へ集合教育	25 39. 7 18 34.	6) 15(22.4)	21 (23. 9) 79 (29. 3)
際M職場教室	6(95) 8(15	4) 7(10.4)	15(17. 0) 36(13. 3)
にA独習	1 3(4.8) 11(-	(-) 0 (-)	1(1.1) 4(1.5)
役 テレビ等 立 職場交流	9(14.3) 5(9. 50(79.4) 35(67.	6) 4(6.0) 3) 44(65.7) 7) 1(1.5) 5) 4(6.0)	12(13.6) 30(11.1) 44(50.0)173(64.1)
立ての他交流	50(79. 4) 35(67. 2(3. 2) 4(7. 4(6. 3) 7(13.	7) 1 1 1.5)	0 7 7 2.6
た体・雑誌	2(3.2) 4(7. 4(6.3) 7(13.	5) 4(6.0)	0(-) 7(2.6) 7(8.0) 22(8.1)
た 本・雑誌 も 新聞 の その他	1 U(- 1 U(-		U(-) U(-)
	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	9) Ĭ(1.5) 9) 9(13.4)	$0(-) 3(1.1) \\ 21(23.9) 33(12.2)$
N A	63(100.0) 52(100.	0 1 67 (100, 0 1	88(100.0)270(100.0)
資料:実態調査よ	り作成	V/1 V. (4 3 3 5 2 7	
注:社会関係: 1	層=何でも気楽に話す	さる日本人がい	\る。Ⅱ層=困ったと Ⅲ層=毎日、話をす
き、相談で る日本人が	さる日本人かいる(いる(I層・Ⅱ層をM	1.漕を除く)。 全く) Ⅳ属=	□
「しょだい!」			
困ったとき:	解决方法:漢字•身持	長り=漢字を書	りいたり、身振り手振 舌し合って伝えた。だ そ不能=解決できず、
りで伝えた。	。 ゆっくり会語=ゆ・	っくり何度も	もし合って伝えた。だ 大郎一般治できず
れかに通訳	=たれかに囲訳して、 ままにすごした。	じりつん。 肝み	て小肥一肝伏じさり、
実際に役立った	たもの: 「あなたが!	日本語を習得す	トる上で、実際に役に 東京後1カ日の集合教
ナーブリンフ	ナカル何ポームしょ4	4 VIII W - 30 C	1古後1カ日の佐入粉

日本語習得に実際に役立ったものとして「職場の日本人との交流」をあげる人も、 I 層では79.4%に達するが、 II 層では67.3%、 II 層では65.7%、そして IV 層では50.0%にとどまる。因った時の相談相手として「職場の日本人」をあげる人も、 I 層では68.9%と多く、 II 層では32.5%、 III 層では31.9%、 IV 層では10.3%と少な v^2 。

第2節 交流を阻む壁としての言葉

では次に、社会諸関係の拡充を困難にしている諸要因を分析しよう。 まず、最大の壁として、言葉・日本語がある³⁾。

「困った時、相談できる日本人」、及び、「何でも気楽に話せる日本人」がいないと答えた人に、その理由(複数回答)を尋ねると、「言葉・日本語の問題」をあげる人が回答者の72.7%と最も多く、「日本人と深く知り合うチャンスがないから」や「中国人の仲間の方がいいから」を大きく上回る。もとより、「言葉・日本語の問題」は、日本語能力の向上に伴い、一定は逓減する。すなわち、日本語(会話)能力がDランクの人では、そうした日本人がいない理由として「言葉・日本語の問題」をあげる人が89.7%に達するのに対し、B・Cランクでは70.5%、Aランクでは66.7%と減少している。この事実は、それ自体、言葉・日本語が、Ⅳ層・Ⅲ層からⅡ層・Ⅰ層の社会関係への移行にとって大きなネックになっていることを示す。また同時に、Aランクの日本語能力をもつ人でさえ、3分の2が社会関係拡充のネックとして「言葉・日本語の問題」をあげているという意味でもまた、言葉・日本語の壁の高さを顕著に示している(*)。

*「言葉・日本語の壁」の具体的事例として、下記の声がある。「日本語が殆どわからないので、日本人と交流する方法がない。返事もできないので交流したくない。中国語が少しでもわかる日本人なら交流したいが、そういう日本人はいない」、「会社の日本人と話をするが、結局、日本語でうまく表現できないので、話が途中で詰まる。その時、とても困る」、「たまに道で日本人が話かけてくれるが、言われたことはわかるが、自分でしゃべれない。日本人と話したいが、うまく表現できないし、会話にとても苦労する」、「中国では『家では父母が頼りだが、外では友達が頼り』ということわざがある。今、まさに自分はこの境地にいる。中国人どうしは信頼して助け合うが、日本人とは交流したくても、できない。言葉の障害で、日本人の友達はまだ一人もいない。とても遺憾だ。日本語がわからないと、友達さえ作れない」。

日本語・言葉のことで困ったことが「ある」と答えた人に、その時の相談相手をたずねても、同様の結果が得られる。すなわち、相談相手として「職場の日本人」をあげる人は、日本語(会話)能力がDランクの人では18.8%と最も少なく、B・Cランクでは36.1%、Aランクでは50.0%と、日本語能力が高いほど多い。逆に、「中国人の研修生・技能実習生仲間」をあげる人は、日本語(会話)能力がAランクの人で66.7%と最も少なく、B・Cランクでは72.1%、Dランクでは81.3%に達する。この事実は一方で、言葉・日本語能力が、日本人との社会関係の形成に大きな影響を与えていることを裏付ける。同時にまた、日本語能力がAランクの人においてさえも、中国人研修生・技能実習生仲間の方が、職場の日本人より大きな位置を占め、その意味でも言葉・日本語の壁の高さが伺える。

さらに、「毎日、話をする日本人がいる」人は、日本語(会話)能力がAランクの人では90.9%に達するが、B・Cランクでは67.9%、Dランクでは26.5%と少ない。「日本人ともっと交流したい」と考えている人も、Aランクでは回答者の72.7%と多いが、B・Cランクでは61.8%、Dランクでは44.1%と少なくなる。つまり、毎日、日本人と話をするからこそますます会話が上達し、さらに日本人との交流を積極的に求める研修生・技能実習生がいる一方、言葉ができないために日本人と話さず、ますます会話が上達せず、日本人との交流に消極的になるという悪循環に陥っている研修生・技能実習生もみられるのである。

なお、日本語(会話)能力がBランクとCランクの人に限ってみると、総じてBランクの人よりCランクの人の方が、日本人との多様な社会諸関係が若干ではあるが濃密である。このことは、第2章第3節で指摘したように、来日後は、Bランク(直接、仕事に関係する日本語なら理解できる)とCランク(あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる)は、日本語能力の水準のみならず、利用場面・語彙の質的差異と捉えられていることを改めて裏付ける。すなわち、上述のような日本人との多様な社会関係の形成にとっては、「直接、仕事に関係する日本語」よりむしろ、「あいさつ・買い物など、簡単な会話」の方が、有用性・必要性が高いのである。

第3節 交流を阻むその他の諸要因

ただし、日本人との社会諸関係の希薄さをもたらしているのは、言葉の壁だけではない。

まず第1に、研修生・技能実習生にとって、日本人との社会諸関係の圧倒的な部分は、職場の日本人に限定されている。「毎日、話をする日本人」として職場の日本人をあげる人は62.2%だが、その他の日本人をあげる人は5.5%と少ない。「困った時、相談できる日本人」も、職場のそれが37.0%、その他が2.6%である。「気楽に何でも話せる日本人」も職場が16.7%であるのに対し、その他は8.5%にすぎない。こうしたアンバランス、とりわけ職場以外の日本人との交流の希薄さは、単に言葉の壁だけでは説明できない。

*職場以外の日本人との交流が特に希薄であることへの不満の具体的事例として、下記がある。

神戸大学発達科学部研究紀要 第9卷第1号

「規則が多すぎて、日本の牢屋にぶち込まれたような感じがする。もちろん、その規則は悪だくみ(失踪による不法残留等)をする人に対して作られたと思うのだが、しかし実際、その人達にとっては全然効果がない。立場がしっかりしている私達はもっと日本でいろんな人と自由に付き合って楽しく生活を送りたい」、「日本の生活はもっと豊富多彩にしてほしい。工場での仕事だけでなく、娯楽活動をもっと増やしてもらいたい。工場以外の日本人とも交流したい。来日して3年になるが、毎日毎日、一生懸命に働くことしか考えなかった」、「日本での私達の生活範囲は極めて狭い。個人的に日本人と付き合う時間は全くない。日本人と付き合うのは仕事の時だけ。だから生活がつまらなく、おもしろ味がない。それは、私達の日本語のレベルの向上にも少なからず影響している」、「日本に来て既に1年8カ月も経った。日本語のレベルは?、と聞かれると、とても恥ずかしい。私は日本人と接触あるいは交流する機会が殆どない。仕事の時に必要最低限の交流をするだけで、仕事を離れた交流は全くない。もちろん会社もそれを許さない。来日して自分が変わったと思う。よく言えば平凡で静かな生活だが、悪く言えば、つまらない日々だ」、「会社の社長は私達が日本人、特に社員以外の日本人と付き合うのを許さない。だから仕事以外の時間、中国人どうしだけの交流になってしまう」。

しかも、職場以外の日本人と交流している数少ない事例についてみると、そこでは、「何でも気楽に話せる日本人がいる」人が8.5%と、「毎日、話をする日本人がいる」人(5.5%)や「困った時、相談できる日本人がいる」人(2.6%)より多くなっている。この事実は、職場以外の日本人との交流・関係が、職場でのそれとは異なる独自の意義一たとえ接触頻度は低くても、気楽に話せる親密な関係を得られやすいこと一を示している。そして語学・日本語の習得にとって、「何でも気楽に話す」ことが重要な役割を果たすことをふまえれば、職場内にとどまらず、地域での日本人との日常的な交流・関係作りの意義が大きいことがわかる。

第2に、「困った時、相談できる日本人」や「何でも気楽に相談できる日本人」の有無と、研修生・技能実習生の日本語(会話)能力との間には、直接的相関は存在しない。単に「話をする」関係を超え、ある程度、深い関係を形成しうるか否かは、すなわち \square 層の社会関係から \square 層や \square 層への移行に際しては、日本語能力だけではない諸要素が重要になるのである。確かに前述の如く、そうした関係形成の最大のネックは、たとえ日本語能力が \square A ランクの人であっても「言葉・日本語の問題」であることにかわりはない。またこれも前述の如く、日本語能力が高い人ほど社会関係拡充のネックとして「言葉・日本語の問題」という理由は相対的に減少する。それにもかかわらず、それが \square 層・ \square 層の増加に直結しないのは、日本語の問題に代わり、「日本人と深く知り合うチャンスが少ない」という理由が増加するからである。「日本人と深く知り合うチャンスが少ない」という理由が増加するからである。「日本人と深く知り合うチャンスが少ない」という理由は、日本語(会話)能力が \square ランクでは \square 20.7%と少ないが、 \square 30.3%と多くなっている。深い関係を形成する際、日本語能力は必要条件であっても、十分条件ではない。

*日本人との「深い関係」の形成が難しいことに対する不満の具体的事例としては、下記がある。「日本人との交流に不満足だ。日本人は内気で、私達と深くつき合おうとしない」、「日本人の社員は、もっと私達に気を配ってほしい。表面的なことばかりで深い本当の気持ちを話そうとしない」、「中国にいる時、日本人はとても優しいと聞いた。でも来日後、それはでたらめだとわかった。日本人の優しさは表面的で、裏表が全然違う。日本人は虚偽で(水臭く)、中国人を軽視している」。また、日本人との信頼関係の欠如を指摘する事例としては、「日本人は中国人に偏見をもっている。中国人には中国人としての自尊心がある。だから日本人に頼るつもりはない」、「私達に厳格さを要求するのはいいが、問題を起こした時、ちゃんと事情を理解した上で慎重に処理してほしい。些細な事で間違って解決すると、私達も元気がなくなり、今後の

人間関係や仕事にも影響が出る」等がある5)。

第3に、言葉・日本語のことで困ったことがある人に、その時の解決法をたずねても、日本語(会話)能力の向上と、社会関係の豊かさの間には微妙な差異がみてとれる。すなわち「漢字を書いたり、身振り手振りで伝えた」という回答は、日本語能力が高い人ほど少なくなるが、社会関係の豊かさとはあまり相関がない。いわば、日本語(会話)能力の向上は、漢字で書くことやボディ・ランゲージの代替として機能するが、それがそのまま社会関係の豊かさに直結するとは限らない。これに対し、社会関係が豊かな人ほど、「ゆっくり何度も話し合って伝えた」という回答が多く、逆に「だれかに通訳してもらった」という回答が少なくなるが、しかしそれは日本語能力とはあまり相関がない。いわば、たとえ日本語能力が低くても、日本人との間に密接な社会関係・信頼関係があれば、必ずしも第三者を介さず、「ゆっくり何度も話し合う」ことによって時間をかけて当事者間で意志疎通を図っているのである。いいかえれば、単に日本語の壁だけでなく、そうした忍耐強いコミュニケーションが困難な場合において、社会関係の拡充が特に難しくなっているともいえる。

言葉・日本語のことで困った時の相談相手も、前述の如く、日本人との社会関係が豊かな人ほど、当然、日本人をあげる人が多く、中国人の研修生・技能実習生仲間をあげる人が少なくなる。この傾向は、日本語能力の水準別にみた傾向と同じだが、しかし、それ以上に顕著である。すなわち相談相手として職場の日本人をあげる人は、I 層では68.9%に達するのに対し、I 層では35.2%、I 層では31.9%、そしてI 層では10.3%と極めて少なくなる。他方、相談相手として中国人の研修生・技能実習生仲間をあげる人は、I 層では46.7%にとどまるが、I 層では75.0%、I 層では74.5%、I 層では93.1%と極めて多い。いわば、相談相手になれるか否かは、確かに日本語能力によって大きく左右さ

れるが、しかしそれだけでは 説明しきれないのである。

第4に、研修・技能実習 (就労) 時間の問題がある (表3-4)。上述のように、 深く知り合い、あるいは日本 語能力が低い中でゆっくり何 度も話し合ったり、文字や身 振りも交えて、時間をかけて コミュニケーションし、さら に職場以外でも日本人との交 流を培うためには、一定の時 間的ゆとりが不可欠である。 現に、社会関係が最も厚いI 層は、研修・技能実習時間が 8時間の人では34.8%を占め るのに対し、9時間の人では 23.8%、10時間以上の人では 11.1%と少なくなっている。 これと対称的に、社会関係が 最も希薄なⅣ層は、研修・技 能実習が8時間の人では17.4

	优労時間と社会諸関係	単位:人(%)
研修時間	8時間 9時間 1(時間~ NA 計
日Aランク	0(-) 11(4.8)	0(-) $0(-)$ $11(-4.1)$
本Bランク	6(26. 1) 90(39. 6)	5(55.6) 5(45.5)106(39.3)
語C ランク	6(26. 1) 90(39. 6) 17(73. 9) 86(37. 9)	1(11.1) 2(18.2)106(39.3)
会Dランク	0(-) 31(13.7)	2(22.2) 1(9.1) 34(12.6)
話その他	0(-) 1(0.4)	0(-) $0(-)$ $1(0.4)$
N A	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	1(11,1) 3(27,3) 12(4,4)
N A	23(100, 0)227(100, 0)	9(100, 0) 11(100, 0)270(100, 0)
社I層	8(34.8) 54(23.8)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
会Ⅱ層	2(8.7) 46(20.3)	2(22.2) 2(18.2) 52(19.3)
関Ⅲ層	9 39. 1 53 23. 3 4 17. 4 74 32. 6	3(33.3) 2(18.2) 67(24.8) 3(33.3) 7(63.6) 88(32.6)
係 <u>IV層</u>	4(17.4) 74(32.6)	2(22.2) 2(18.2) 52(19.3) 3(33.3) 2(18.2) 67(24.8) 3(33.3) 7(63.6) 88(32.6) 9(100.0) 11(100.0)270(100.0)
甜	23(100.0)227(100.0)	9(100.0)L11(100.0)270(100.0)
相談・言葉	8(72.7)106(73.1)	5(83.3) 1(33.3)120(72.7)
話相手中国がいい がいな機会なし	1(9.1) 13(9.0)	1(16.7) 1(33.3) 16(9.7)
がいな機会なし	2(18.2) 41(28.3)	2(33.3) 1(33.3) 46(27.9)
い理由 <u>その他</u>	0(-)1(0.7)	0(-) 0(-) 1(0.6)
(MA)計	11(100.0)145(100.0)	6(100.0) $3(100.0)165(100.0)$
困相へ職場日本人	7(36.8) 52(32.7)	3(50.0) 3(50.0) 65(34.2)
っ談M中国研修生 た相A大家さん	11(57. 9)121(76. 1)	6(100.0) 2(33.3)140(73.7)
た相A大家さん	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$0\langle -\rangle 0\langle -\rangle 1\langle 0.5\rangle$
と手〜その他		0(-) 1(16.7) 12(6.3)
き 計	(0.001) 021(0.001)	6(100.0) $6(100.0)$ $190(100.0)$
交もっと交流希望	15(65. 2)137(60. 4)	4(44.4) 4(36.4)160(59.3)
流今のままで満足 満交流減らしたい	3(13. 0) 47(20. 7)	1(11.1) $1(9.1)$ $52(19.3)$
満交流減らしたい	$egin{array}{cccc} 0(&-&) & 6(&2.6) \\ 3(&13.0) & 7(&3.1) \\ \end{array}$	1(11.1) 0(-) 7(2.6)
足その他	3(13.0) 7(3.1)	1(11.1) 2(18.2) 13(4.8) 2(22.2) 4(36.4) 38(14.1)
N A	2(8. 7) 30(13. 2)	2(22.2) 4(36.4) 38(14.1)
ET CONTRACTOR	23(100.0)227(100.0)	9(100.0) 11(100.0)270(100.0)
資料:実態調査より	0作成	

ド - 民恋病音より作成 : 日本語会話: Aランク=日常会話に不自由しない。Bランク=直接、 仕事に関係する日本語なら理解できる。Cランク=あいさつ・賃削い 物など、簡単な会話ができる。Dランク=ほとんど会話ができない。 社会関係: I層=何でも気楽に話せる日本人がいる。Ⅲ層=田ったと き、相談できる日本人がいる(I層を除く)。Ⅲ層=毎日係が るし本人がいる(I層・Ⅲ層を除く)。Ⅳ層=上述の関係がすべて 「いない」。

相談・話し相手がいない理由:言葉=言葉・日本語の問題。中国がいい。相談相手・話し相手はやはり中国人の仲間の方がいい。機会なし。日本人と深く知り合うチャンスが少ない。

%と少ないが、9時間の人では32.6%、10時間以上の人では33.3%と多くみられる。

また、「困った時、相談できる日本人」や「何でも気楽に話せる日本人」がいない人に、その理由を尋ねると、「言葉・日本語の問題」、及び、「日本人と深く知り合うチャンスが少ない」と答えた人はいずれも、研修・技能実習時間が長くなるほど増加する。すなわち、「言葉・日本語の問題」をあげる人は、研修・技能実習が8時間の人では72.7%、9時間では73.1%、10時間では83.3%である。「日本人と深く知り合うチャンスが少ない」と答えた人は、研修・技能実習が8時間の人では18.2%、9時間では28.3%、10時間以上では33.3%と増加している6。さらに、困った時の相談相手として、中国人の研修生・技能実習生仲間をあげる人は、研修・技能実習が10時間以上の人では100%だが、9時間では76.1%、8時間では57.9%と少なくなっている。逆に、「日本人ともっと交流したい」と感じている人は、研修・技能実習が10時間以上の人では44.4%、9時間の人では60.4%、8時間の人では65.2%と、時間にゆとりがある人ほど、積極的な態度をとっている。

このような時間的ゆとりの違いに基づく社会関係の豊かさの差は、研修生・技能実習生の日本語能力の水準や質にも明らかに反映している。すなわち、研修・技能実習が8時間の人では73.9%が日本語能力がCランク(あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる)である。これに対し、研修・技能実習時間が長くなるほど、一方でBランク(直接、仕事に関係する日本語なら理解できる)、他方でDランク(ほとんど会話できない)が増加する。研修・技能実習が長時間になるほどDランクが増えるのは、単に日本語の独習時間だけでなく、職場の内外の日本人との日常的なコミュニケーションの時間がとれないことの影響が大きいと思われる。また、前述の如く、BランクとCランクは、少なくとも来日後については日本語会話能力の水準のみならず、質・場面の差異でもあった。特に、「困った時、相談できる」・「何でも気楽に話せる」、親密な関係の形成には、「直接、仕事に関係する日本語(Bランク)」にとどまらない日常会話(Cランク)の方が必要でさえある。そしてこうした関係の形成が、短期的には仕事・研修と結びつかなくても、中長期的には日本語能力の向上、及び、それを通した研修・技能実習の円滑化につながる事は、既に述べた通りである。

以上のように、研修生・技能実習生の日本語能力の向上にとって最大のカギは、日本語教室の拡充や独習の促進以上に、日本人との日常的な交流・信頼関係の形成にある。そうした日本人との交流の形成において最大のネックが日本語能力であることも間違いない。しかしそれにもかかわらず、そうした交流の形成は、単に客観的な日本語能力だけに規定されるわけではなく、より多様なコミュニケーションの質や手段、時間的ゆとり、職場や労働(研修)にとどまらない人間的な信頼関係によって、大きく影響される。そうした領域にまで視野を広げ、研修生・技能実習生のトータルな生活過程と社会諸関係の中で日本語能力向上の多様な契機を発見し、その芽を紡いでいくことが重要であろう"。

《補注》

- (1) 社会関係の希薄さについて、斎藤圀守(1991)53~54頁は、次のように指摘する。最近の傾向として、外国人研修生が増え、寮もできたので日本人との共同生活が減少し、また日本人社員も気質が変化して余暇は私生活をエンジョイするようになった。さらに、以前は研修生もグループ単位でOJTを行っていたが、昨今はマンツーマン方式となり、親睦も現場単位となった。研修生の側でも休日は個々人で時間を費やすようになり、また、物が豊富にあるために、以前のように古着等ほしがらなくなり、その面でも交流の質が変化した。日本人との社会関係の希薄さ・問題点については、浅野慎一(1997)160~163頁、浅野慎一(1995)292~294頁。研修指導員・生活指導員が十分に確保されていないことについては、労働省職業能力開発局海外協力課(1990)38頁。
- (2) ただし、こうしたインフォーマルな社会関係に依存することの問題点として、ケオマノータム・マリー(1992)132~133頁。本稿の事例にも、社長の「えこひいき」に悩む研修生・技能実習生、あるい

は納得のいかないまま途中帰国を命じられ、抗議文を出す研修生・技能実習生等もみられる。

- (3) 日本語能力と日本人との社会関係の相関については、内田賢(1991)137頁、駒井洋他(1992)813頁。
- (4) 海外技術者研修協会編(1985)「まえがき」は、「世の常識とは逆に、交流が深まると友好よりも離反が生ずるという現象」を指摘し、異文化の相互理解にとどまらず、相互許容・友好的共存の重要性を指摘する。また研修生と受入側日本人の社会関係の質については、浅野慎一(1997)175~176・374~381頁、浅野慎一(1995)295~299頁を参照。
- (5) 異文化の壁を指摘する意見も少数だがみられる。「来日したばかりの研修生に日本の風俗や習慣、 礼儀などの注意すべき事を教えてほしい。私達は中国式の生活をしているので、時に日本人に誤解 され、とても困る。中国式の生活は正しいと思っているのですが」等である。ただし、その数は少な い。なぜなら「異文化の壁」は、少なくとも日本人との一定の交流・接触が存して初めてぶつかるも のであり、しかもそれだけであれば、乗り越えることが比較的容易だからだと思われる。問題は注 (4)でも指摘したように、異文化理解にとどまらない生活をかけた共存・許容である。こうした諸 点については、浅野慎一(1998)参照。
- (6) 研修・技能実習時間が短いほど、技術習得上で困ったことがある人は少なくなり、逆に生活面で 困ったことがある人が多い。
- (7) こうした点にかかわる指摘として、児島秀和(1992)、宮本真一(1992)等。

第4章 日中合弁企業と中国系企業の出身者別にみた諸特徴

さて、序章第6節で指摘したように、対象者の来日直前の職場は、日中合弁企業が48.9%、中国系企業が44.1%とほぼ拮抗している。両者間で、性別・平均年齢・最終学歴・家族構成・居住地等の基本属性に、それほど顕著な差は見られない。ただし両者は、来日前の日本語・日本人との接触、及び、日本での研修の意義や将来展望において、一定の違いを内包する。

以下、その実態を分析しよう。

第1節 来日前の日本語学習・日本語能力

まず、学校時代に日本語を履修した人は、日中合弁企業出身者では18.2%で、中国系企業の12.6% に比べるとやや多い(表4-1・2)。逆に、外国語を履修しなかった人は、中国系企業では12.6% を占めるが、日中合弁企業では5.3%と少ない。総じて日中合弁企業出身者の方が、学校時代、外国語、とりわけ日本語に接した人がやや多い。とはいえ、日中合弁企業出身者でも、やはり最大の位置を占める履修外国語は英語である。

来日前の日本人との交流は、中国系企業出身者では87.4%が「なかった」と答えている。これに比べ、日中合弁企業出身者は職場での日本人との交流がやや多い。しかしそれでも、それがあった人は、日中合弁企業出身者の中でも37.9%にとどまる。たとえ日中合弁企業に勤めていても、一般労働者の彼女達には、上司・幹部にあたる日本人との間で交流といえるほどの関係は少なかったようである。

来日前、日本語教室に通ったことがある人は、日中合弁企業出身者で48.5%、中国系企業出身者で39.5%である。通ったことがある場合、期間・クラス人数・回数・時間等にそれほど明瞭な差はない。来日前、日本語を独習した人は、日中合弁企業出身者では37.9%と比較的多く、中国系企業出身者では23.5%と少ない。ただし独習した場合、その独習時間は、日中合弁企業出身者では3時間未満が回答者の59.1%と短く、中国系企業出身者では6時間以上が72.7%と長い10。

日本語を全く学ばなかった人に、その理由を尋ねると、中国系企業出身者では「近くに日本語教室がなかった」(42.1%)、「日本語教室の費用が高額だった」(15.8%)、「仕事や家事で忙しかった」(57.9%)等、客観的・外在的理由をあげる人が多い。これに対し、日中合弁企業出身者では、「特に理由はない」(33.3%)、「日本に行ってから学べばいいと思った」(12.5%)等、主体的・主観的な理由が比較的多い。

来日前の日本語能力は、会話・読解とも、日中合弁企業出身者と中国系企業出身者で、顕著な差はない。ただし、「ほとんど会話ができない(Dランク)」人は、日中合弁企業出身者で44.7%、中国系企業出身者で50.4%、「漢字で意味を類推する程度で、ほとんど読めない」人は、日中合弁企業出身者で46.2%、中国系企業出身者で51.3%と、若干ではあるが、中国系企業出身者の方が多い。

以上の如く、日中合弁企業出身者の方が、中国系企業出身者に比べれば、来日前に日本語と触れる客観的チャンスがやや多く、最も基礎的な日本語能力において若干のメリットがみられる。ただし、それはあくまで相対的な差にすぎず、日中合弁企業出身者の日本語学習環境も良好とはいえず、その日本語能力が特に高いわけでもない。むしろ逆に、ごく少数だが、厳しい環境の中で日本語を学ぶ中国系企業出身者には、長時間の独習に自覚的に取り組む人がみられる²¹。

表4-1 表	来日前の 耳 3本語能力	戦場別!	こみた	:来日前	前の E	本語。	との接	
录口表入路	14×11111111111111111111111111111111111	60年	- 18 15	77				
来日前の職			中国		70)他	計	
学校時英語	97(73.5)	87(73.1)	13(68.4)	197(73.0)
代履修日本	語 24	18. 2)	15(12.6)	4(21.1)	43(15.9)
外国語なし	77	5. 3	150	12.6	Ĩζ	5.3)	23(15. 9) 8. 5)
NÃ	1 42	3.0	122	1. 73	i>	5. 3	77	15. 9) 8. 5) 2. 6)
	4(- 0. U/			+>		700	2. 6) 24. 8)
日本人職場	500	37. 9)	13(10.9)	4(21.1)	675	24. 8)
との交その)	3(2.5)	0(-)	3(1.1)
流の有なし	820	62.1)	104(87.4)	13(68.4)	199(73.7)
無 NA	1 00	<u> </u>	ĨŌζ		2(10.5)	20	(0,7)
日本語通っ		48.5	470	39.5	8(42. I)	1197	44.15
教室・通わ	ない 68	48. 5) 51. 5)	72	60.5	117	57. 9	1512	<u>55. 9</u>
		- <u>51. 5/</u>		80. 24	-11	31.9/		33. 87
日本語した	500	37. 9)	280	23. 5)	29	10. 5/	800	29. 6)
独習 しな	い 77(58.3)	91(76.5)	14(73.7)	182(67.4)
N A	50	3.8	0()	3(15. 8)	8(3.0)
来会Aラン	ク 20 ク 120	1.5)	17	-0.8)	10	15. 8) 5. 3)	40	1.5
	7 150	9. ĭ)	140	1Ĭ. Š	ŌĆ		26	9. 6) 29. 6)
日話 I I I I I I I I I I I I I	ク 480	36. 4	310	26. 1)	ĭċ	5. 3	802	29. 6
・・・ 思いにくく			91				180	49. 07
一前 Dラン	ク 590	44.7)	605	50.4)	9(47. 4)	1285	47. 4)
		0.8	0(—)	0()	İĠ	0.4)
日 NA	100	7, 6)	13(10.9)	. 8(42.1	31(11.5)
本読aラン	ク 1 0(-10	$\frac{10.9}{0.8}$	<u>8(</u> 0(1	0.4
語解 b ランン	ク 14(10.6)	11(9. 2)	00	S	250	9. 3 5. 2 48. 9
超 c ラン	ク 19(10. 6) 6. 8)	4	9. 2) 3. 4)	· ĭ?	5. 3		9. 3) 5. 2)
男 はきシ		46. 2)	612	51.3	100	52. 6	14(132(48. 9)
- パーピスム		40. 4				34.0		40. 2
その他	1.19	0.8)	3(2.5)	00		45	1.5)
N A	47(35.6)	39(32.8)	8(42.1)	94(34.8)
計	132(100.0)	119(1	(00.0)	19(100.0)	270 ()	(00, 0)
資料:実態:	周査よりイ	成						

*: 夫恐嗣皇より作成 名言より作成 会話: 名ランク=日常会話に不自由しない。 Bランク= 直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。 Cラン クーあいさつ・質い物など簡単な会話ができる。 Dランク= はとんど会話ができない。 読解: a ランク=新聞程度の文章が読める。 bランク= 直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。 c ラン クー版学型のできなら読む。 d ランク= 変字で意味を

表4-2 来日前の職場別にみた日本語への対応(回答者) 単位:人(%)

				:人(%)
来日前の職場	旧中合弁	中国系	その他	計
日時3時間未満	朅 13(59.1)	1(9.1)	I(-)	15(42. 9)
本間3時間~	2(9.1)	2(18. 2)	0(-)	4(11.4)
語 4時間~	1 00 5	ō(==)	0C - 5	(-)
猫 5 時間~	Ĭ 4.5	l 0 − 0 1 − 1 1	ň?	l i (2.9)
語 4時間~ 5時間~ 6時間~	6(27, 3)	8 72.8	1 (50. 0)	15(42. 9)
	22(100.0)	11,519 <u>0. 9</u> 3	2(100.0)	35(100.05
学人多忙	100 41 7	117 57 45	2(28.6)	23(46. 0)
ばM教室なし	3 12.5	8 42.1)	0(-)	11(22.0)
なA来自後	3 12.5	12 5.3	3(42.9)	
か)費用高額	1 4.2		0 - 3	4 8.0
っしまらない	1 (4.2)	0(-)	UC - 2	1(2.0)
た 言葉不要	0(-)	(0(-)	0(-)	0(-)
理 方法不明	+ 0(-)	(0(-)	0(-)	(0(-)
理 方法不明由 理由なし	8(33,3)	4(21.1)	4(57.1)	16(32. 0)
訐	24(100.0)	19(100.0)	7(100.0)	50(100.0)
資料:実態調査	より作成			

資料: 美忠調査より作成 住: 学ばなかった理由=「来日が決まっても、なぜ日本語を 学ばなかったのか」: 多忙=仕事や家事で忙しかった。 教室なし=近くに日本語教室がなかった。来日後=日本 に行ってから学べばいいと思った。費用高額=日本語教 室の費用が高かった。つまらない=言葉・外国語の勉強 はつまらないから。言葉不要=言葉・日本語の勉強は必 要ないと思った。方法不明=勉強の方法がわからなかった。

第2節 来日後の日本語学習と研修・技能実習生活

さて次に、来日後の日本語学習と研修・技能実習生活について、見ていこう(表4-3・4)。

来日後の客観的な日本語学習環境には、日中合弁企業出身者と中国系企業出身者の間で、あまり大きな違いは見られない²⁾。また、実際の日本語能力も、来日前には若干ではあれ、日中合弁企業出身者の方が高かったが、現時点ではその差も殆どなくなっている。

来日後の日本人との社会関係のあり方も、日中合弁企業出身者と中国系企業出身者との間で、客観的にはそれほど顕著な差はみられない³。

ただし、「日本語を習得する上で、実際に役立っているものは? (複数回答)」という質問に対し、

「職場の日本人との交流」をあげた人は、日中合弁企業出身者では72.0%と特に多いが、中国系企業出身者では59.7%にとどまる。中国系企業出身者では、「集合教育での日本語教室」が36.1%、「研修・技能実習先の職場での日本語教室」が17.6%、「日本語の本・雑誌」が13.4%と相対的に大きな位置を占める。

また、「この半年間、言葉・日本語のことで困ったことがある」場合、その相談相手は、日中合弁企業出身者では職場の日本人が37.0%を占めるが、中国系企業出身者ではそれは24.4%にとどまり、中国人の研修生・技能実習生仲間が78.2%と特に多い。

さらに、日中合弁企業出身者では66.7%が「もっと日本人と交流したい」と考えているが、中国系企業出身者ではそれは51.3%にとどまり、むしろ「今のままで満足」が21.8%、「日本人との交流は減らしたい」も5.0%みられる。

そして、現時点で「来日前、日本語を 学んでおいた方がよかった」と感じてい る人は、日中合弁企業出身者で回答者の 95.0%と特に多く、中国系企業出身者で は77.3%とやや少ない。

総じて、日中合弁企業出身者の方が、 中国系企業出身者に比べ、来日後、日本 人との日常的交流の中で日本語を習得し ており、何か困ったことがあっても日本 人に気楽に相談しており、日本人との交 流や日本語の習得に積極的な姿勢をとっ ているといえよう。

田田	表4-3 来日前の	の職場別に	みた来日後の		6)
その他	来日前の職場	日中合弁		その他 計	
その他	旦営Aマンク	3(2.3	75 5.9	1 15 5.33 115 4.	1)
その他	条門 B フィク	52(39.4	45 37.8	9 47. 4 1106 39.	37
その他	門にこころ	20 43. 9	1 45 31.8	3 15. 8 100 39.	3
NA	との他	15 11.4	1 1p> 1p, 4<	3 15. 8 34 12.	3
読aランク 42(31.8) 42(35.3) 5(26.3) 89(3.0) cdランク 14(10.6) 12(10.1) 0(-2.6) 89(18.1) cdランク 24(18.2) 20(16.8) 5(26.3) 49(18.1) nn A 52(39.4) 44(37.0) 9(47.4)105(38.9) 実 無場数室 15(11.4) 21(17.6) 0(-2.36(13.3) ca A) 25(39.4) 44(37.0) 9(47.4)105(38.9) また 15(11.4) 21(17.6) 0(-2.36(13.3) ca A) 25(39.4) 44(37.0) 9(47.4)105(38.9) を 15(11.4) 21(17.6) 0(-2.36(13.3) ca A) 25(39.4) 44(37.0) 9(47.4)105(38.9) を 15(11.4) 21(17.6) 0(-2.36(13.3) ca A) 25(39.4) 44(37.0) 9(-2.36(13.3) ca A) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(31.1) 25(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.4) 44(39.		\(\lambda \rangle \) = 0	1 <u> </u>	\$\ \bar{-}\$\land{15}\ \land{4}.	*
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	語ュランク	0 -	1 12 4. 4	3 13.04 12 4.	* <
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	解じるシク	42 31 8	1 422 35 35	5 \ 26 3 \ 89 \ 33	'nζ
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	TTC ランク	14 10 6	1 12 10 1		ጀ
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	l d ランク	247 18.2	20 16 8	5 26 3 49 18	ĭŚ
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	その他	1 0(—	3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	. 0 1 k = 50 l	ā 5
際州職場数室 は 15(11. 4) 21(17. 6) 0(-) 36(13. 3) 1(0. 8) 3(2. 5) 0(-) 4(1. 5) 2(2. 7) 1(12. 9) 10(8. 4) 3(15. 8) 30(11. 15) 2(2. 6) 7(2. 0) 71(59. 7) 7(36. 8) 173(64. 1) 30. 75 本・雑誌 6(4. 5) 16(13. 4) 0(-) 22(8. 1) 30 15. 8) 30(11. 1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	N A	52(39.4	44(37.0)	96 47. 481056 38.	9)
立 職場交流	実へ集合教育	33(25.0	43(36.1)	3(15.8) 79(29.	3)
立 職場交流	際M職場教室	15(11.4	21(17.6)	0(-) 36(13.	3)
立 職場交流	にA独省	1 1 0.8	3 2.5	0(-) 4(1.	5)
も 新聞 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(175 12.9) 10(_8.4)	3 15.83.30 11.	1)
も 新聞 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(95C 72. U) 7 <u>1</u> 5 5 <u>9</u> . 73	7 36. 8 3173 64.	ĬΣ
も 新聞 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(-) 0(2 年の他父流	ic n. i) 16(15. UX		65
の その他 12 (9.1) 13 (10.9) 8 (42.1) 33 (12.2) 	た 女に見る	6 4.5		$\begin{vmatrix} 0 \\ - \end{vmatrix} \begin{vmatrix} 2z \\ 8 \end{vmatrix}$	īΣ
B技術あり 90(68.2)74(62.2)10(52.6)174(64.4) つ習得なし 33(25.0)41(34.5)7(36.8)81(30.0)た 90(6.8)4(3.4)2(10.5)15(5.5)た 日常あり 86(65.2)73(61.3)12(63.2)171(63.3)と生活なし 34(25.8)37(31.1)3(15.8)74(27.4)12(9.1)9(7.6)4(21.1)25(9.3)交もっと交流希望82(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流今のままで満足 22(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流今のままで満足 22(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流分の表まで満足 24(4.5)6(5.0)1(5.3)31(4.8) 15(11.4)20(16.8)3(15.8)38(14.1)	のその他	%>			٦.
B技術あり 90(68.2)74(62.2)10(52.6)174(64.4) つ習得なし 33(25.0)41(34.5)7(36.8)81(30.0)た 90(6.8)4(3.4)2(10.5)15(5.5)た 日常あり 86(65.2)73(61.3)12(63.2)171(63.3)と生活なし 34(25.8)37(31.1)3(15.8)74(27.4)12(9.1)9(7.6)4(21.1)25(9.3)交もっと交流希望82(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流今のままで満足 22(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流今のままで満足 22(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3)流分の表まで満足 24(4.5)6(5.0)1(5.3)31(4.8) 15(11.4)20(16.8)3(15.8)38(14.1)	N A	192 0 1	√ 145 10.8 4	8 49 10 23 15	\$<
20 日	味味締まり	<u> </u>	1 742 62 2	102 55 6 41742 64	衦
20 日	ら層得なし	33(25.0	417 34.5	76 36 83 81 30	ã
20 日	to NA	9(6.8	3.40	2 10.5 15 5.	55
と性活なし 34(25.8) 37(31.1) 3(15.8) 74(27.4) 12(9.1) 9(7.6) 4(21.1) 25(9.3) 交もっと交流希望 88(66.7) 61(51.3) 11(57.9)160(59.3) 満分のままで満足 22(16.7) 26(21.8) 4(21.1) 52(19.3) 満交流減らしたい 1(0.8) 6(5.0) 0(-77(2.6) 足その他 15(11.4) 20(16.8) 3(15.8) 38(14.1) 計 132(100.0)119(100.0) 19(100.0)270(100.0) 管料:実態調査より作成	こ日常あり	86(65. 2	73(61.3)	12(63. 2)171(63.	35
NA	上压油沉上	34(25.8	37(31.1)	3(15.8) 74(27.	4)
交もっと交流希望 88(66.7)61(51.3)11(57.9)160(59.3) 流今のままで満足 22(16.7)26(21.8)4(21.1)52(19.3) 満交流減らしたい 1(0.8)6(5.0)0(-)7(2.6) 足その他 6(4.5)6(5.0)1(5.3)13(4.8) NA 15(11.4)20(16.8)3(15.8)38(14.1) 計 132(100.0)119(100.0)19(100.0)270(100.0)	INA	1 1 2 \ 9. 1	9(7.6)	4(21.1) 25(9.	3)
元今のままで満足 22(16.7) 26(21.8) 4(21.1) 52(19.3) 満交流減らしたり 1(0.8) 6(5.0) 0(-) 7(2.6) 足その他 6(4.5) 6(5.0) 1(5.3) 13(4.8) NA 15(11.4) 20(16.8) 3(15.8) 38(14.1) 計 132(100.0) 119(100.0) 19(100.0) 270(100.0) 音針:実態調査より作成	交もっと交流希望	88(66. 7	361(51.3)	11(57.9)160(59.	3)
海交流減らしたい 1(0.8) 6(5.0) 0(-) 7(2.6) 足その他 6(4.5) 6(5.0) 1(5.3) 13(4.8) NA 15(11.4) 20(16.8) 3(15.8) 38(14.1) 計 132(100.0) 119(100.0) 19(100.0) 270(100.0) 資料:実態調査より作成	通会のままで満足	225 16.7) 26(21.8)	4 4 21.1 3 52 19.	3)
NA	酒 父流滅らしたい	Ĭ(Ñ Ā) 6 5.0		62
計 132(100.0)119(100.0) 19(100.0)270(100.0) 資料: 実態調査より作成		1 12 14. 3	1 20 12.0	1 45 15. 84 485 14.	함
資料:実態調査より作成	31 IN W		1110/100 00	1 3 13. 6 36 14. 1 10/100 0 970/100	╁
	資料:実態調査より		MII 9 (100. U)	1 10/100. 0 M210/100.	<u>v</u> 2

表4-4 来日前の	の職場別にみ	た来日後の)意見・相語 単位	炎相手 :人(%)
来日前の職場	日中合弁	中国系	その他	計
来日前はい	19(95. 0)	17(77.3)	6(100.0)	42(87.5)
日本語いいえ	0(-)	3(13.6)	0(-)	3(6.3)
学ぶべどちらとも	1(5.0)	2(9.1)	0(-)	3(6.3)
き計	20(100.0)	22(100, 0)	6(100.0)	48(100.0)
困った職場日本人	37(37.0)	19(24.4)	9(75. 0)	65(34.2)
ときの中国研修生	72(72.0)	61(78.2)	7(58.3)	140(73.7)
相談相大家さん	0(-)	1(1,3)	0(-)	1(0.5)
手 その他	5(5.0)	7(9.0)	0(-)	12(6.3)
(MA)計	100(100.0)	78(100.0)	12(100.0)	(190(100.0)
資料:実態調査よ)作成			
注:来日前日本語	学ぶべき=	「来日前にE	日本語を学ん	もでおいた
方がよかった。	と思うか」。			

《補注》

- (1) 日本語学習の理由・動機にそれほど顕著な差はないが、日中合弁企業出身者では「日本の経済・文化・社会に興味があったから」が33.7%と多く、中国系企業出身者では「いつか日本に行ってみたいと思ったから」が22.8%と多い。
- (2)集合研修に対して、日中合弁企業出身者では「先生に質問する時間を増やしてほしい」が16.7%、中国系企業出身者では「もっと実用的な言葉を教えてほしい」が81.9%と多い。また配置先職場での日本語教室の整備状況、及び、独習しない場合の理由等に、一定の差がみられる。ただしこれは、日中合弁企業出身者と中国系企業出身者の差というより、むしろ次章でみる来日年次に基づく差

異が大きく影響しているものと思われる。

(3) 日中合弁企業出身者の日本人との関係が特に企業内に限定されがちであるのに対し、中国系企業出身者のそれはやや企業外にも広がる傾向がある。

第5章 滞日年数別にみた諸特徴

日本語の習得は、いうまでもなく時系列的に進む。そこで本章では、滞日年数別に、どのような変化がみられるのかを検証しよう。序章第6節で述べた如く、本調査の対象者は、1999年度の来日者(滞日1年目・研修生)が41.1%、1998年度来日者(滞日2年目・技能実習生)が39.3%、1997年度来日者(滞日3年目・技能実習生)が17.8%である。

第1節 来日前の日本語学習

まず、学校時代、日本語を履修した人は、1997年度来日者では8.3%にすぎなかったが、1998年度来日者では17.0%、1999年度来日者では18.0%と、徐々に増加している。逆に、学校で外国語を学ばなかった人は、1997年度来日者では12.5%を占めていたが、1998年度来日者では9.4%、1999年度来日者では6.3%と減少している(表 $5-1\cdot2$)。

来日前、日本人と職場で交流があった人は、1997年度来日者では12.5%、1998年度来日者で27.4%、1999年度来日者で27.9%と、増加している。特に日中合弁企業の内部での交流の増加が顕著である。

来日前、日本語教室に通ったことがある人も、1997年度来日者の33.3%に比べ、1998年度来日者では47.2%、1999年度来日者では45.9%と多くなっている。通ったことがある人の中で、その期間が1カ月未満の短期であるケースは、1997年度来日者で28.6%、1998年度来日者で13.3%、1999年度来日者では皆無と、徐々に長期化している。また週6回以上、通った人は、1997年度来日者では回答者の72.7%を占めるが、1998年度来日者では66.7%、1999年度来日者では25.0%と減少している。総じて、最近の来日者ほど日本語教室に通う人が増え、しかもそれは短期集中ではなく、長期間にわたるケースが多くなっているのである。

来日前に日本語を学んだ理由・動機(複数回答)をたずねると、「日本に研修に行くことが決まったから」(1997年度来日者で68.2%、1998年度来日者で74.6%、1999年度来日者で75.4%)、「日本の先進技術に興味があったから」(1997年度来日者で9.1%、1998年度来日者で30.2%、1999年度来日者で31.1%)、「日本の経済・文化・社会に関心があったから」(1997年度来日者で9.1%、1998年度来日者で20.6%、1999年度来日者で36.1%)、「外国語・言葉が好きだったから」(1997年度来日者で皆無、1998年度来日者で6.3%、1999年度来日者で11.5%)と、主要な理由・動機が、いずれも最近の来日者ほど多くなっている。さらに1999年度来日者では「日本人の友人がほしかったから」という理由も18.0%を占める。これは直接には、最近、来日した人ほど、来日前の多様な思い・期待を詳細に記憶しており、複数の回答を選択しやすいということによると思われる。ただし同時に、最近の来日者ほど、日本に対する多様なイメージに基づく複合的な動機をもって、日本語の学習に取り組んでいる可能性も否定しえない。

以上のようにみてくると、最近、来日した研修生ほど、来日前から日本語と接する機会が客観的に 多く、主体的にも多様な動機に基づいて積極的な日本語学習がなされていることがうかがえる。

しかしその一方で、来日前、日本語を独習した人は、1997年度来日者の33.3%、1998年度来日者の34.9%に比べ、1999年度来日者では23.4%と明らかに少ない。

また、日本語教室・独習を問わず、来日前に日本語を全く学ばなかった人に、その理由(複数回答)

をたずねると、「近くに日本語 教室がなかったから」(1997年 度来日者で25.0%、1998年度来 日者で24.1%、1999年度来日者 で16.7%)、及び、「仕事や家事 で忙しかったから」(1997年度 来日者で50.0%、1998年度来日 者で48.3%、1999年度来日者で 41.7%)といった、外在的理由 ・事情をあげる人は年々減少し ている。

いわば、「日本語を学びたたく も学べない」客観的な理にに 事情は徐々に減少し、実際に増え 本語教室に通う人も着で、 といるが、しかし他方で、 も困難な事情があったわま はないにもまなかからず日本も はないに親まなかか習者を はないたないと はないたが進んでい するないしが進んでい はないえよう。

こうした中で、来日直前の日 本語能力は、会話・読解とも、 1999年度来日者において最も低 く自己評価されている。すなわ ち会話面では「ほとんど会話が できない (Dランク)」人は、 1997年度来日者では41.7%、1998 年度来日者では39.6%だが、1999 年度来日者では57.7%を占めて いる。読解面でも、「漢字で意 味を類推する程度でほとんど読 めない」人は、1997年度来日者 では45.8%、1998年度来日者で は42.5%にとどまるが、1999年 度来日者では58.6%と高くなっ ている。もとよりこの数字は、 来日直前の日本語能力の客観的 水準を示すとは限らず、来日後、 日が浅い1999年度来日者が、日

表5-1 来日前	前の日本語との接触と日本語能力	単位:人(%)
来日年次	1999年 1998年 1997年	NA 計
学校時英語	81(73.0) 75(70.8) 37(77.1)	4(80. 0)197(73. 0)
代履修日本語	20(18. 0) 18(17. 0) 4(8. 3) 7(6. 3) 10(9. 4) 6(12. 5)	1(20. 0) 43(15. 9)
外国語なし	7(6.3) 10(9.4) 6(12.5)	0(-) 23(8.5)
NA	$3(2.7) \ 3(2.8) \ 1(2.1)$	0(-)7(2.6)
日本人職場	31(27.9) 29(27.4) 6(12.5)	1(20. 0) 67(24. 8)
との交その他	1(0.9) 1(0.9) 1(2.1) 80(72.1) 75(70.8) 40(83.3)	0(-1) 3(1.1)
流の有なし	805 72.13 755 70.83 405 83.33	4
無 <u>NA</u>	0(-) 1(0.9) 1(2.1)	$0\langle -\rangle 2\langle 0.7\rangle$
日本語連った	51(45.9) 50(47.2) 16(33.3)	2(40. 0)119(44. 1)
<u>教室 通わない</u>	60(54.1) 56(52.8) 32(66.7)	3(60. 0) 151(55. 9)
日本語した 独習 しない	26(23.4) 37(34.9) 16(33.3) 82(73.9) 66(62.3) 31(64.6)	1(20. 0) 80(29. 6) 3(60. 0)182(67. 4)
NA NA	26(23. 4) 37(34. 9) 16(33. 3) 82(73. 9) 66(62. 3) 31(64. 6) 3(2. 7) 3(2. 8) 1(2. 1)	
	2 1.8 0 $ 2$ 4.2	1(20.0) 8(3.0) 0(-) 4(1.5)
日会 Aランク 本話 Bランク	7 6.3 17 16.0 2 2 4.2	0(-) 4(1.5) 0(-) 26(9.6)
語『Cランク	7(6.3) 17(16.0) 2(4.2) 28(25.2) 37(34.9) 13(27.1)	2 40.0 80 29.6
Dランク	7(6.3) 17(16.0) 2(4.2) 28(25.2) 37(34.9) 13(27.1) 64(57.7) 42(39.6) 20(41.7)	2 40.0 128 47.4
その他	0(-1) $0(-1)$ $1(-2.1)$	0(-1) $1(0.4)$
NA	K8.02 301 K4.0 9.43 100 20.8	ĬĊ 20. 0X 3ĪĊ 1Ĭ. 5
	1(-0.9) 0(-) 0(-)	0(-3)1(-0.4)
読a ランク 解b ランク	7(6.3) 11(10.4) 6(12.5)	1(20.0) 25(9.3)
cランク		0(-)(14(5,2)
d ランク	65(58.6) 45(42.5) 22(45.8)	$0\langle -11\overline{32}\langle 48.\overline{9}\rangle$
その他	2(1.8) 2(1.9) 0(—)	0(-)4(1.5)
I IN A	<u>35(31. 5) 38(35. 8) 17(35. 4)</u>	4(80.0) 94(34.8)
計	<u>(0.001)84 K0.001)601K0.001)111</u>	5(100, 0)(270(100, 0)
資料:実態調査。	くり作成	21 \ D = \ A = \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \

E:日本語会話:Aランク=日常会話に不自由しない。Bランク=直接 仕事に関係する日本語なら理解できる。Cランク=あいさつ・買い物など簡単な会話ができる。Dランク=ほとんど会話ができない。

日本語読解: a ランク = 新聞程度の文章が読める。b ランク = 直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。c ランク = 簡単な文章なら読める。d ランク = 漢字で意味を類推する程度でほとんど読めない。

表 5 -	-2 来日前		2習(回答者		単位:/	(%)
	年次	1999年	1998年	1997年	N A	_ 計
日期本語教	1カ月未満 1カ月~ 2カ月~	0(-)	6(13.3)	4(28.6)	1(50.0)	11(9.7)
本間	1ヵ月~"	32(61.5)	15(33. 3) 24(53. 3) 45(100. 0)	4(28, 6) 6(42, 8)	1(50.0)	52(46. 0) 50(44. 2)
語	夏カ月~ │	20(38.4)	24(53.3)	6(42.8)	0(-)	50(44.2)
教	計	52(100.0)	45(100.0)	14C100.0X	2(100.0)	113(100,0)
室回数	週5回未満 週5回 週6回	14(35.0)	4(10.3)	2(18. 2) 1(9. 1) 8(72. 7)	$0\langle -\rangle$	20(21.7) 26(28.3) 29(31.5)
数	週5回	16(40.0)	9(23.1)	1(9.1) 8(72.7)	0(-)	26(28. 3) 29(31. 5)
1 1	週6回	6(15.0)	9(23.1) 14(35.9)	8(72.7)	1(50.0)	29(31.5)
1 1	週7回	4(10.0)	12(30.8)	(-)0	1(50.0)	17(18.5)
	a-	40(100.0)	39(100.0)	(0.001)11	<u>2(100.0)</u>	92(100.0)
学へ	研修決定	46(75.4)	47(74.6) 19(30.2)	15(68.2) 2(9.1) 2(9.1) 0(-) 2(9.1) 2(9.1)	2(100.0)	110(74.3)
資M	技術興味社会興味	19(31.1) 22(36.1)	19(30. 2) 13(20. 6)	2(9.1)	ī(~50. 0)	41(27.7)
動A 機	社会興味 言葉好き	22(36.1)	13(20.6) 4(6.3) 5(7.9)	2(9.1)	1(50.0)	38(25.7)
機〜	言葉好き	7(11.5)	4(6.3) 5(7.9)	K — 20	0(-)	11(7.4)
į.	友人ほしい	11(18.0)	5(7.9)	2(9.1) 2(9.1)	0(-)	11(7.4) 18(12.2) 17(11.5)
	来日希望	1i	11(17.5)	2(9.1)	0(-)	17(11.5)
1	友人ほしい 来日希望 日系就職	4(6,6)	2(3.2)	2(9.1)	0(-)	8(5.4)
	計	61(100,0)	63(100.0)	22(100.0)	2(100.0)	148(100.0)
学人	多忙	5(41.7) 2(16.7)	14(48.3)	4(50. 0) 2(25. 0)	$0\langle -\rangle$	23(46.0)
(JM	教室なし		7(24.1)	2(25. 0)	0(-)	11(22.0)
なA	費用高額	(<u> </u>	4 13.8 1 3.4	0(-) 2(25. 0)	0(-)	4(8.0)
ゕ゚゚	来且後	3(25. 0)	1 3.4	2 25.0	1(100.0)	7(14.0)
ラー	来日後	0(-)	U(-)	U()	0(-)	(0(-)
った理由	方法不明	0(-)	(-)	K - >0	0(-)	0(-)
理	つまらない	1(8.3) $4(33.3)$	(-)	K —)0	0(-)	1(2.0)
由	言葉不要 方法不明 つまらない 理由なし	1 8. 3 4 33. 3	10(34.5)	0(-) 2(25. 0) 8(100, 0)	0(-)	16(32.0)
- 1	<u> </u>	17/100.07	29(100.0)	8(100, 0)	1(100.0)	50(100.0)
日交	日中あり	24(49.0)	22(39.3)	3(12.5) 21(87.5)	1(33.3)	50(37.9)
本流	合弁 <u>なし</u>	25(51.0)	34(60.7)		2(66.7)	82(62,1)
人の	企業計	49(100.0)	56(100.0)	24(100.0)	3(100.0)	132(100.0)
と有	中国あり	4(7.1)	7(16.3)	4(26.7)	0(-)	15(14.4)
の無	系 なし」	52(92.9) 56(100.0)	36(83.7)	15(78.9)	1(100.0)	104(87.4)
ŀ	企業計	56(100.0)	43(100.0)	19(100.0)	1(100.0)	119(100.0)
資料	実態調査。	とり作成				
注 • ~	少30萬小姓 —	じがさまぎ ロコ	に話え 学/ギン	ちレ田 一 かめ	、? │ ・スエエイ	火油 完一日

代: 学習動機=「なぜ、日本語を学ぼうと思ったか?」: 研修決定=日 本に研修に行くことが決まったから。技術興味=日本の先進技術 に興味があったから。社会興味=日本の経済・文化・社会に興味 があったから。言葉好き=外国語・言葉が好きだったから。友人 ほしい=日本人の友人がほしかったから。来日希望=いつか日本 に行ってみたいと思ったから。日系就職=中国にある日系企業で

学ばなかった理由=「来日が決まっても、なぜ日本語を学ばなかったのか」: 多仁=仕事や家事で忙しかった。教室なし=近くに日本語教室がなかった。費用高額=日本語教室が高かった。来日後=日本に行ってから学べばいいと思った。言葉・子芸が出る。では、一日本語の勉強は必要ないと思った。方法不明=勉強の方法がわからなかった。つまらない=言葉・外国語の勉強はつまらないから。

本語の困難に直面している現状の中で、来日前の自らの日本語能力を特に低く評価している可能性も大きい。ただし少なくも、先述した日本語との接触のおいた。本日直前の日本語能力に対する自己評価は、顕在的に年々「底上げ」されるには至っていない」。

第2節 来日後の日本語学習

さて次に、来日後の日本語学 習・教育の実態を、滞日年数別 にみよう²⁾ (表5-3・4)。

まず、配置先職場の日本語教 室についてみると、1998年度来 日者(滞日2年目)で最も充実 しており、1999年度来日者(滞 日1年目)で最も低水準にあり、 1997年度(滞日3年目)でその 中間にあることがわかる3)。す なわち職場に日本語教室がある 人は、1998年度来日者では44.3 %と最も多く、1999年度来日者 では28.8%と最も少ない。また 職場に日本語教室がある場合、 その講師は、1998年度来日者で は回答者の44.2%が生活指導員 だが、1999年度来日者では95.7 %が会社の上司である。さらに 主体的にも、職場に日本語教室 がない人の中で、それを「ほし い」と感じている人は、1999年 度来日者で83.3%と最も多い。

このように、職場での日本語 教室が、1999年度来日者(滞日 1年目)で最も低水準で、1998 年度来日者(滞日2年目)で最 も充実していることの背景には、

表5-3 来日後の日本語学習 単位:人(%) 来日年次 1999年 1998年 1997年 N.A. 計 職場 あり 32(28.8) 47(44.3) 19(39.6) 2(40.0)100(37.0
日本語なし 73(65.8) 55(51.9) 27(56.3) 3(60.0)158(58.5
数室 NA 6(5.4) 4(3.8) 2(4.2) 0(- 12(4.4
日本語あり 78~70.3~80~75.5~30~62.5~5~100.0~193~71.5
独習 なし 30(27.0) 26(24.5) 15(31.3) 0(-) 71(26.3
NA = 3(2.7) 0(-3) 3(6.3) 0(-3) 6(2.2)
改隆音先生 2(1.8) 0(-) 0(-) 0(-) 2(0.7
- 養文法先年 1(0.9) 5(4.7) 2(4.2) 0(-) 8(3.0
要質問先生 3~2.7~3~2.8~2~4.2~6~ 8~3.6 望実用教科書 9~8.1~18~17.0~13~27.1~9~ - ~40~14.8
- HRIMAGE ANT SEED ON OUT A DOUBLE OF A
要質問先生 3(2.7) 3(2.8) 2(4.2) 0(-) 8(3.0 空実用教科書 9(8.1) 18(17.0) 13(27.1) 0(-) 40(14.8 (27.1) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0) 0(-) 8(3.0
M練習教科書 4(3.6) 4(3.8) 0(-) 0(-) 8(3.0 A質問時間 7(6.3) 13(12.3) 4(8.3) 1(20.0) 25(9.3
後・ビデオ 17 (15.3) 24 (22.6) 7 (14.6) 1 (20.0) 49 (18.1)
宿題 () () () () () () () () () (
会話練習 41~36.9~48~45.3~15~31.3~0~ - 104~38.5
宿題 4(3.6) 2(1.9) 2(4.2) 0(-) 8(3.0) 会話練習 41(36.9) 48(45.3) 15(31.3) 0(-)104(38.5) 集用言葉 73(65.8) 74(69.8) 27(56.3) 2(40.0)176(65.2)
実用言葉 73(65.8) 74(69.8) 27(56.3) 2(40.0)176(65.2) 文法練習 23(20.7) 26(24.5) 11(22.9) 1(20.0)61(22.6
文法練習 23(20.7) 26(24.5) 11(22.9) 1(20.0) 61(22.6 その他 2(1.8) 3(2.8) 1(2.1) 9(-) 6(2.2
NA 21(18.9) 10(9.4) 7(14.6) 3(60.0) 41(15.2)
計 111(100.0)106(100.0) 48(100.0) 5(100.0)270(100.0) 資料: 実態調査上が作成

表 5 - 4 来日後	後の日本語	(回答者)		単位:人(%)	
来日年次	1999年	1998年	1997年	NA SH	
職講会社上司 場師生活相談員	22(95.7)	23(53.5)	11(61.1)	1 50. 0 57 66. 3 1 50. 0 27 31. 4	35
場師生活相談員	1(4.3)	19(44.2)	6(33.3)	1(50.0) 27(31.4	1)
クタ 中国人	0(-)	0(-)	1(5.6)	0(-) 1(1.2	2)
日その他	0(-)	1(_2.3)	L 0()	0(-1)1(1.2)	2) 2)
本 計	23(100.0)	43(100.0)	18(100, 0)	2(100.0) 86(100.0))
語期1カ月末満	3(14. 3)	4(10.5)	0()	0(-)7(9.5)	57
教間1カ月~	1 11(52.4)	11(28.9) 23(60.5)	3(20. 0) 12(80. 0)	0(-) 25(33.8	3)
室 2カ月~	7(33.3)	23(60.5)			3)
計	21(100, 0)	38(100.0)	15(100.0)	<u> </u>	<u>))</u>
時 1 時間未満	10(55.6)	8(21.6)	2(15.4)	0(-) 20(29.0	D-
間1時間~	8(44.4)	24(64.9) 5(13.5)	9 69.2	0(-) 41(59.4	(1
2時間~	0(-)	5(13.5)	2(15.4)	1(100.0) 8(11.6	<u>3)</u>
計_	18(100.0)	37(100.0)	13(100.0)	Ī(100.0) 69(100.0	D
週1回	2(11.1)	22(59.5)	7(53.8)	1(100.0) 32(46.4	D .
回2~3回 数4回以上	0(-)	9(24.3)	6(46.2)	0(-) 15(21.7	
数4回以上	16(88.9)	6(16.2)	0(-)	0 $ 1$ 2 2 3 1 3	
<u></u> 計	18(100.0)	37(100.0)	13(100.0)	1(100.0) 69(100.0	
なほしい	55(83. 3)	33(78. 6)	18(78.3)	2(100.0)108(81.2	2)
いほしくない 場どちらとも	0()	4(9.5) 5(11.9)	1(4.3)	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	3)
場どちらとも	11(16.7)	5(11.9)	4(17.4)		<u>))</u>
合計	66(100.0)	42(100.0)	23(100.0)	2(100. 0)133(100. 0 3(75. 0)173(95. 1	<u>))</u>
日手本 本段テレビ	77(100.0) 25(32.5) 3(3.9) 5(6.5)	71(98.6) 27(37.5)	22(75. 9)	3(75. 0)173(95. 1	()
本段テレビ	25(32. 5) 3(3. 9) 5(6. 5)		12(41.4)	2(50. 0) 66(36. 3 0(-) 5(2. 7	3)
語ヘラジオ 独Mテープ	3(3.9)	$\begin{array}{cccc} 1(&1.4) \\ 3(&4.2) \end{array}$	1(3.4)	0(-)5(2.7)	D^{-}
独Mテープ	5(6.5)	3(4.2)	0()	0(-)8(4.4)	
習 A その他	1(1.3)	10(13.9)	4(13.8)	<u>0(-) 15(8.2</u>	22
	77(100.0)	72(100.0)	29(100.0)	4(100.0)182(100.0	<u>D</u>
独个多忙	6(20.7)	11(44.0)	5(38.5)	0(-) 22(32.8	
習M言葉不要	1(3.4)	1(4.0)	1(7.7)	0(-)3(4.5)	5)
しA万法不明	1(3.4) 21(72.4)	17(68. 0)	5(38.5) 1(7.7)	0(-)43(64.2)	
なつとまらない	3(10.3)	0(-)	1(-7.7)	0(-) 4(6.0	
い 理由なし		2(8.0)	4(30.8)		(1
MA A 大法不 が で で で で で で の 他 で の の の の の の の の の の の の の	0 $)$	1(4.0)	0(-)	0(-) 1(1.5	Σ
田計	29(100.0)	25(100.0)	13(100.0)	0(-) 67(100.0	<u>))</u>
資料:実態調查。	より作成 ̄ ̄				

主:独習しない理由:多忙=仕事で忙しいから。言葉不要=言葉・日本 語の勉強は必要ないから。方法不明=勉強の方法がわからないから。 つまらない=言葉・外国語の勉強はつまらないから。

滞日1年目の末に日本語を含む試験が実施され、その合格者だけに2年間の継続滞在・技能実習生への移行が認められるという制度がある。その試験の少し前の時期(滞日1年目の後期)から日本語教

室を開設する職場が比較的多いのである。1999年度来日者は、調査時点ではまだその時期にさしかかっていない。1998年度来日者は比較的最近、そうした日本語教室を経験してきた。なお、滞日1年目の末の試験(追試験を含む)では、ごく一部の例外を除き、殆どの研修生は最終的には合格し、継続滞在・技能実習への移行が認められる。しかしそれでも、万一の「不合格=帰国」を恐れる研修生にとっては、この試験は日本語学習に取り組む上で、かなり大きな直接的動機となっている。

日本語を独習している人は、1998年度来日者(来日2年目)で75.5%と最も高く、1999年度来日者(来日1年目)が70.3%とそれに次ぎ、1997年度来日者(来日3年目)で62.5%と最も低い。独習の手段は、滞日年数が長くなるほど本やテープ等の利用が減少し、テレビが増加する。つまり、意図的・意識的な日本語学習が減少し、日常生活の中でのそれが増加する。

日本語を独習していない人に、その理由をたずねると、1999年度来日者では「勉強の仕方がわからないから」が72.4%と圧倒的に多いが、この理由は、1998年度来日者では68.0%、1997年度来日者では38.5%と、滞日年数が長くなるほど減少する。それに代わり、「仕事の研修で忙しいから」という理由が、1998年度来日者では44.0%、1997年度来日者では38.5%と多くなり、さらに1997年度来日者では「特に理由はない」との回答も30.8%と多くみられる4。

各企業への配置以降、日本語の習得のために「改善してほしい点(複数回答)」をきくと、まず「教科書を実用的なものにしてほしい」が、1999年度来日者では8.1%、1998年度来日者では17.0%、1997年度来日者では27.1%と年々増加している。日本語に習熟してくるに伴い、教科書が実用的でないことが実感されるようである。また、それ以外の主要な改善要望については、1998年度来日者(滞日2年目)で、特に顕在化している。すなわち、「先生に質問する時間を増やしてほしい」、「絵やビデオなどを使って授業してほしい」、「会話の練習をもっと増やしてほしい」、「もっと実用的な言葉を教えてほしい」、「文法に関する練習をもっとやらせてほしい」等、主要な要望はいずれも、1998年度来日者によって最も多く選択されている。ある1998年度来日者は、「今、私たちはすでに実習生になっているから、研修や日本語教育に対して、意見も多い」と語る。

総じて、1999年度来日者(滞日1年目)は、言葉の壁に最も顕著に直面し、また年度末の技能実習生への移行の可否をかけた試験があるため、日本語学習の意欲が高く、日本語教室の設置に対する要望も大きい。ただし、日本語学習の方法や日本語教育で改善すべき点を、まだ具体的に自覚・認識できていない場合が多い。これに対し、1998年度来日者(滞日2年目)では、技能実習生への移行試験やそれに向けた日本語教室・独習を既に経験し、日本語の学習に対する意欲が最も高い水準にある。また日本語の学習方法や教育上の問題についても具体的に認識し、それだけに改善要求も顕在化している。ただ、就労面での多忙さが日本語学習の大きなネックとなっている。そして1997年度来日者(滞日3年目)になると、既にそれなりに日本語の習熟も進み、また試験もかなり過去のものとなり、さらにこれ以上の日本滞在延長がないので、日本語の学習率、特に本やテープを用いた意図的・意識的な独習率は下がり、日本語教育に対する改善の要望もそれほど顕著ではなくなってきている。

第3節 来日後の日本語能力と諸問題

さて、対象者の日本語能力は会話・読解とも、滞日年数に伴って着実に向上している(表 5-5)。まず会話面で「ほとんど会話ができない(Dランク)」人は、1999年度来日者では21.6%を占めるが、1998年度来日者では7.5%、1997年度来日者では2.1%と減少している。これに代わり、1998年度来日者では46.2%が「あいさつ・買い物など簡単な会話ができる(Cランク)」となり、さらに1997年度来日者では43.8%が「直接、仕事に関係する日本語ならできる(Bランク)」、10.4%が「日常生活に不自由しない(Aランク)」に到達している。読解面でも、「漢字で意味を類推する程度でほとんど読めない」人は、1999年度来日者では27.9%を占めるが、1998年度来日者では14.2%、1997年度来日者

では6.3%と減少している。そして1998年度来日者では15.1%が「簡単な文章なら読める」、1997年度来日者では43.8%が「直接、仕事に関係する日本語なら理解できる」水準に到達している⁵⁾。

表5-5 来日後6	の日本語			単位:人(%)	
来日年次	1999年	1998年	1997年	NA L 計	
日会Aランク	4(3.6)	2(1.9)	5(10.4)	$0\langle -\rangle 11\langle 4.1\rangle$	
本話Bランク 語 Cランク	42(37. 8) 37(33. 3) 24(21. 6)	41(38.7)	21(43. 8) 18(37. 5)	2(40. 0)106(39. 3) 2(40. 0)106(39. 3)	
語 C ランク D ランク	37(33. 3) 24(21. 6)	49(46. 2) 8(7. 5)	18(37.5)	2(40. 0) 106(39. 3) 1(20. 0) 34(12. 6)	
その他	1(0.9)	8(7.5) 0(-)	1(2.1)	1(20.0)34(12.6) 0(-)1(0.4)	
N A	3 2.7	6 5.7	3 6.3	0(-) 1(0.4) 0(-) 12(4.4)	
読aランク	Ŏ(=)	0(-)	□ (0(-)0(-)	
解bランク	35(31.5)	32(30.2)	21(43.8)	1(20.0) 89(33.0)	
c ランク	3(2.7)	16 15.1	7(14.6)	0(-) 26(9.6)	
dランク	31(27. 9)	15(14. Z)	3(6.3)	0(-)49(18.1)	
その他	1(0.9)	0(,-)	U(-)	0(-) 1(0.4)	
N A	41(36.9)	43(40.6)	17(35.4)	4(80.0)105(38.9)	
計 困技術あり	69(62, 2)	106(100.0)	48(100.0) 30(62.5)	5(100, 0)270(100, 0)	
(対対な目) シュ (69(62.2) 33(29.7)	71(67. 0) 32(30. 2)	30(62. 5) 15(31. 3)	4(80. 0)174(64. 4) 1(20. 0) 81(30. 0)	
っ 首 け NA	9 8.1	3(2.8)	3(6.3)	0(-)15(5.5)	
こ日常あり	74 66.7	64 60.4	31 64.6)	2(40.0)171(63.3)	
と圧居なし	25 22.5	34(32.1)	132 27.13	2(40.0) 74(27.4)	
N A	122 10.82	8 7.5	4(8.3)	2(40. 0) 74(27. 4) 1(20. 0) 25(9. 3)	
ā+	111(100.0)	106(100.0)	48(100.0)	5(100. 0)270(100. 0)	
解漢字・身振り	61(72.6)	55(70.5)	16(57.1)	1(33.3)133(68.9)	
決ゆっくり会話 方だれかに通訳	19(22.6)	22(28.2)	8(28.6)	1(33.3) 50(25.9)	
方だれかに通訳	20(23.8)	4 (5.1)	K -)0	1(33.3) 25(13.0)	
法解決不能	6(7.1)		5(17. 9)	1(33.3) 16(8.3)	
その他	1(1.2)	1(1.3)	0(-)	0(-) 2(1.0)	
E†	84(100.0)	78(100.0)	28(100.0)	3(100, 0)193(100, 0)	
資料:実態調査より作成。					

日者で43.8%と、それほど大きく変わっていない。その一方で、Cランクの比率は、1999年度来日者では33.3%だが、1998年度来日者では46.2%と増加し、1997年度来日者では37.5%と逆に減少している。いわば、単純に「Cランク $\rightarrow B$ ランク \rightarrow (Aランク)」と上昇するケースだけでなく、「Bランク \rightarrow Cランク \rightarrow (Aランク)」へという推移も想定しうるのである。

同時に、以上の日本語能力の推移は、会話・読解とも回答者の過半数が、直接、研修・仕事に係わる日本語ができるようになるのは、滞日3年目になってからであることをも示している。いいかえれば、滞日3年目になっても、そうした水準に達しない人が回答者の3~4割を占めるのである⁶。

さらに、「この半年間、言葉・日本語のことで困ったことがあるか?」という質問に対しては、日常生活面・技術習得面とも、滞日年数別に特に顕著な傾向はみられない。前述のように日本語能力は滞日年数に応じて着実に向上していることをふまえれば、「言葉・日本語の問題で困ること」が無くなったり、減少したりするわけではなく、むしろ「困ること」の質または水準が変化するものと考えられる。ある技能実習生は「来日して2年以上になるが、相変わらずいろんな問題に出会う」と語る。

しかしまた同時に、「困ったことがある」と答えた人に、その時の主な解決方法をたずねると、「漢字を書いたり、身振り手振りで伝えた」人(1999年度来日者では回答者の72.6%、1998年度来日者では70.5%、1997年度来日者では57.1%)、及び、「だれかに通訳してもらった」人(1999年度来日者では回答者の23.8%、1998年度来日者では5.1%、1997年度来日者ではゼロ)は、滞日年数が長くなるほど少なくなる。逆に、「ゆっくり何度も話し合って伝えた」人は、1999年度来日者では22.6%にとどまるが、1998年度来日者では28.2%、1999年度来日者では28.6%と、徐々に増加している。すなわち、「ゆっくり」であれ「繰り返し」であれ、とにかく日本語会話によるコミュニケーションが徐々に図られるようになっているのであり、前述の日本語能力の着実な向上が、ここからも伺える。しか

し他方で、「解決できず、わからないまますごした」人も、1997年度来日者(滞日3年目)で17.9% と最も多い。ここには、一方での諦観と、他方で「少しくらいわからないことがあっても大したこと はない」という「慣れ・開き直り」的な要素もあると思われる。

第4節 来日後の社会諸関係と日本語

さて次に、滞日年数別に、 来日後の社会諸関係と日本語 習得の関連をみよう(表5-6・7)。

まず、「日本語を習得する 上で、実際に役立っているも のは? (複数回答) | という 質問に対しては、滞日年数が 長くなるほど、「職場の日本 人との交流」をあげる人が多 く(1999年度来日者で52.3%、 1998年度来日者で70.8%、1997 年度来日者で72.9%)、逆に 「集合教育での日本語教室 | をあげる人は少なくなる(1999 年度来日者で41.4%、1998年 度来日者で23.6%、1997年度 来日者で12.5%)。また、1999 年度来日者では「本・雑誌」 や「職場での日本語教室」が 一定の位置を占めるが、それ らは滞日2年目以降は減少し、 むしろ「ふつうのテレビ・ラ ジオ」をあげる人が徐々に増 加する。いわば滞日年数が長 くなるほど、教室での日本語 教育や意識的独習より、日常 生活やそこでの日本人との交 流が、実際の日本語習得にとっ て大きな意味をもつと認識さ れている。

現に、「毎日、話をする日 本人がいる」人は、1999年度

表5-6 来	日後の日本語と	生会諸関係		単位:人(%)
来日年次 実(集合教育 際立職場教室 にA)独習	1999年	1998年	1997年	NA I
実へ集合教育	46(41.4)	25(23.6)	6(12.5)	2(40.0) 79(29.3)
際立職場教室	21(18. 5 3(2. 7) 8(7. 2) 58(7. 2) 58(52. 3) 2(1. 8) 15(13. 5)	120, 23, 5, 5, 1, 1, 0, 9, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,	$6\langle 12.5\rangle$	1 20. 0 36 13. 3
にA独省	$\frac{3(2.7)}{2}$	K	0()	0(-) 4(1.5)
位 アレヒ寺	8(7.2)	13 12. 3	6 12.5	3(60. 0) 30(11. 1)
立職場交流	58(52. 3)	75< 70.83	35 72. 9	5(100. 0)173(64. 1) 0(-) 7(2. 6)
っ その他交 た 本・雑誌	「流 2(1.8) 15(13.5)	5(4.7) 3(2.8)	0(-) 3(6.3)	0(-) 7(2.6) 1(20.0) 22(8.1)
も新聞	0(-	1 % ±°1	i 0 0.31	
も 新聞 の その他	$\begin{vmatrix} 0 \\ - \end{vmatrix} $	3 2 ≥ 1.93	1/91	$0 \langle - \rangle $ $3 \langle 1.1 \rangle$
NA	13 11.7	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	7 14.6	0 $ 33$ 12.2
を持ちまる 流		\$ 54\ 50.9X	36 75.00	3(60 0)(60(59 3)
交もっと交流 流今のままで	満定 21(18.9)	54(50.9) 26(24.5) 2(1.9) 6(5.7)	36(75.0) 5(10.4) 3(6.3) 3(6.3)	0(-) 52(19.3)
満交流減らし	たい 2(1.8)	_2(_1.9)	5(10.4) 3(6.3)	0(-) 7(2.6)
満交流減らし 足その他	4(3.6)	2(1.9) 6(5.7)	3(6.3) 3(6.3) 1(2.1)	06 - 11136 / RY
N A	17(15.3)			2 40.0 38 14.1
毎日職場	63 56. 8	69(65.1) 7(6.6) 37(34.9)	33(68.8) 5(10.4) 15(31.3)	3(60,0)168(62,2)
会話その他	3(2.7)	7 6.6	5 10.4	0 $ 15$ 5.5
相談職場	48(43.2)	37(34.9) 41(38.7)	15(31.3) 15(31.3)	2(40, 0)102(37, 8) 1(20, 0)100(37, 0)
相手その他	43(38.7)	1 41(38.7) 3(2.8)	15(31.3) 5(10.4)	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
なし	68 61. 3	41(38. 7) 3(2. 8) 65(61. 3) 21(19. 8)	15(31.3) 5(10.4) 33(68.8)	4 80. 0 170 63. 0
気楽職場	15(13. 5)	21(19.8)	9(188)	0(-)(45(16.7)
に話その他	4(3, 6)	X 14€ 13. 2X	9(18.8) 5(10.4) 37(77 1)	0 $ 123$ 8.5
なし	92(82. 9)	14(13.2) 73(68.9)	5(10.4) 37(77.1)	5(100.0)207(76.7)
社 I 層	19(17.1)	או וני זעע א	1 117 99 01	0(-) 63(23.3)
会工層	27(24. 3	20(18. 9) 27(25. 5)	4(8.3) 18(37.5)	1(20. 0) 52(19. 3) 2(40. 0) 67(24. 8) 2(40. 0) 88(32. 6)
関 皿層	20(18. 0) 45(40. 5)	27(25. 5)	18 37.5	2(40. 0) 67(24. 8) 2(40. 0) 88(32. 6)
係 IV層	45(40.5)) 26(24.5 <i>)</i>	15(31.3)	
#	111(100.0	(0,001)301K	48(100.0)	5(100.0)270(100.0)
資料:実態調査	より作成	セナニナームミロー	ト新ナガが	よる上で、実際に役立
注:実際に役ってい	立ったもの:「。 るものは何です。	あなたが日本	と前で 17年8	る上し、天際に及立 道後1カ月の集合教育
での日	本語教室。職場	~」 教室=研修5	その職場に	テってからの日本語教
字』神	習=テープ・ラ		ごの日本語	すってからの日本語教 専座。テレビ等ニふつ
室。独 うのテ	レビ・ラジオ。	職場交流三	开修先職場の	の日本人との交流。そ
の他交	流=その他の日	本人との交流	た。本・雑誌	ま=日本語の本・雑誌。
新聞=	日本語の新聞。			Louis in the second second
	:「毎日、話を	する日本人,	」は、研修を	た職場・その他にいま
すか。	/相談相手:困	ったとき、	理談できるは	日本人」は、研修先職 ら気楽に話せる日本人」
場・ケールの	の他にいますか	する日本人_ ったとき、 れる といますか	古一 一切でも	3天(米に前でる日本人)

表5-7 来日後6	<u> 2意見・相談</u>	炎相手 (回答	答者)	単位	:人(%)
来日年次	1999年	1998年	1997年	NΑ	計
困った職場日本人	20(25.6)	28(36.8)	14(43.8)	3(75.0)	65(34.2)
ときの中国研修生	63(80.8)	54(71.1)	21(65.6)	2(50.0)	140(73.7)
相談相大家さん	l 0 (-)	1(1.3)	(-)	$\overline{0}(-)$	1(0.5)
手 その他	5(6.4)	3(3.9)	4(12.5)	0(-)	12(6, 3)
(MA)計	78(100.0)	76(100.0)	32(100.0)	4(100.0)	190(100.0)
相談言葉	67(84.8)	37(63.8)	14(53.8)	2(100.0)	120(72. 7)
相手中国がいい	7(8.7)	5(8.6)	4(15.4)	$\bar{0}(-)$	16(9.7)
がい機会なし	22(27. 8)	15(25. 9)	9(34.6)	0(-5)	46(27. 9)
ないその他	0(-)	1(1.7)	k - 50 l	$\tilde{C} - \tilde{D}$	1(0.6)
理由計	79(100.0)	58(100.0)	26(100, 0)	2(100, 0)	165(100, 0)
資料:実態調査より	7作成				=
注・相談相手がいた		一	日本語の問	期。中国が	バいい=相

・ II 層を除く)。 IV層 = 上述の関係がす

: 相談相手がいない理由:言葉=言葉・日本語の問題。中国がいい=相 談相手・話し相手はやはり中国人の仲間の方がいい。機会なし=日本 人と深く知り合うチャンスが少ない。

来日者では56.8%、1998年度来日者では65.1%、1997年度来日者では68.8%と、滞日年数が長くなるほど着実に増加している。職場以外にそうした日本人がいる人も、1999年度来日者では2.7%、1998年度来日者では6.6%、1997年度来日者では10.4%である。

また日本語の問題で困ったときがある場合、その相談相手も、滞日年数が長くなるほど、「研修・

神戸大学発達科学部研究紀要 第9巻第1号

技能実習先職場の日本人」が多くなり(1999年度来日者で25.6%、1998年度来日者で36.8%、1997年度来日者で43.8%)、逆に「中国人の研修生・技能実習生仲間」が少なくなっている(1999年度来日者で80.8%、1998年度来日者で71.1%、1997年度来日者で65.6%)。

しかしそれにもかかわらず、「困った時、相談できる日本人がいる」人、及び、「何でも気楽に話せる日本人がいる」人は、必ずしも滞日年数に応じて増加するわけではない。特に滞日 3 年目にはそれらはむしろ減少する傾向すらみられる。すなわち、「困った時、相談できる日本人」がいない人は、1999年度・1998年度来日者では61.3%だが、1997年度来日者では68.8%を占める。「気楽に話せる日本人」がいない人も、1999年度来日者では82.9%と多く、1998年度来日者では68.9%と少ないが、1997年度来日者では77.1%とまた多くなっている70。

社会関係の厚みを滞日年数別にみても、最も稠密な社会関係を確保している I 層は、1999年度来日者では17.1%、1998年度来日者では31.1%と増加しているが、1997年度来日者では22.9%と逆に少なくなっている。それに次ぐⅡ層は、1999年度来日者で24.3%、1998年度来日者で18.9%、1997年度来日者で8.3%と、むしろ滞日年数が長いほど減少傾向にある。そして、社会関係が最も希薄なⅣ層は、1999年度来日者の40.5%から、1998年度来日者では24.5%と大幅に減少しているが、しかし1997年度来日者では31.3%と増加している。そしてⅢ層だけが、1999年度来日者で18.0%、1998年度来日者で25.5%、1997年度来日者で37.5%と着実に増加しているのである。いわば、滞日1年目には社会関係が最も希薄なⅣ層、及び、様々なことを日本人に相談するⅡ層が多い。2年目には毎日、話をするⅢ層、及び、最も社会関係が稠密な I 層への移行が、すなわち社会関係の一定の豊富化が進む。しかし3年目になると、むしろⅢ層への停滞、及び、Ⅳ層への逆行がみられるのである。

こうした3年目の変化は、前述の日本語能力の着実な進歩をふまえるならば、単に日本語・言葉の問題ではない。また、日本人との社会関係の形成に向けた研修生・技能実習生側の意欲の希薄化でもない。現に日本人と「もっと交流したい」という人は、1999年度来日者では60.4%で、1998年度来日者では50.9%と減少するが、1997年度来日者では75.0%と大幅に増加する。

それにも関わらず、滞日3年目で日本人との社会関係の希薄化が生じるのは、研修・技能実習の期限切れが迫るに伴い、日本人と深い社会関係形成の困難さに対する、ある種の諦観が顕在化してくるためと思われる。現に「困ったとき、相談できる日本人」、及び、「何でも気楽に話せる日本人」がいない場合、その理由(複数回答)として、「言葉・日本語の問題」は、1999年度来日者では84.8%を占めるが、1998年度来日者では63.8%、1997年度来日者では53.8%と、滞日年数が長くなるほど減少している。逆に、1997年度来日者では、「日本人と深く知り合うチャンスがないから」(34.6%)、及び、「中国人の仲間の方がいいから」(15.4%)という理由が多くみられる。

総じて、滞日1年目には、主に言葉・日本語の問題で日本人との交流に困難を感じている人が多いが、滞日年数が長くなると、言葉の問題は緩和され、一定の表面的ないし最低必要限のコミュニケーションは可能になっている。特に滞日2年目では、意欲的に日本人との関係形成が求められているし、実際に関係は深まっている。しかしそれ以上の延長がない滞日3年目になると、言葉・日本語の困難は一層緩和されるにもかかわらず、日本人とより一層「深く知り合うチャンスがない」と感じ、そのことへの諦観が広がり、客観的にも日本人との社会関係は希薄化し、相談相手・気楽な話相手は「中国人の研修生・技能実習生仲間の方がいい」と感じる人が再度、多くなっているのである。

こうした社会関係形成をめぐる推移、とりわけ3年目の特徴は、日本人との社会関係が、日本語・言語のみならず、各年次毎に変化する研修生・技能実習生のトータルな客観的・主体的状態、及び、研修生・技能実習生と日本人の関係性の推移によって変わることを示している。特に、滞日年数が長くなるほど、言葉・日本語の問題に限らず、より全人格的で深いコミュニケーションの意識的な形成が重要な意味をもってくるのである。もちろん、そうした深いコミュニケーションの構築において言

葉が重要であり、いいかえれば、そうしたレベルまで日本語を上達させることが極めて困難だという側面もある。しかし同時に、日本語での表面的なコミュニケーション・交流が可能になるほど、より一層「深く知り合う」ことの困難さを強く感じるといったジレンマが発生することも事実である。さらに、最終年度の滞日3年目になると、一方で「日本人ともっと交流したい」という要求を高めつつ、しかし他方では、「少しくらいわからないことがあっても何とかなる」という「慣れ」、及び、「どうせ日本人との深い交流は無理だから、相談・話し相手は中国人研修生・技能実習生仲間の方がいい」といった諦観も顕在化するのである。

こうした諸点をふまえると、滞日年数が長くなり、日本語能力が向上するほど、言葉・日本語の教育・学習に限らず、より全人格的で深いコミュニケーションの意識的な形成が、さらなる日本語習得の上でも、また円滑な研修・技能実習の実施の上でも、特に重要になってくるといえよう。とりわけ、一種の「慣れ・諦観」が顕在化してくる以前の2年目の取り組みが重要な意味をもつと思われる。

《補注》

- (1) 来日前の日本語教育に対して、「教科書を実用的なものにしてほしい」、「もっとわかりやすい教科書にしてほしい」、「文法に関する練習をもっと増やしてほしい」との要望は、長期滞日者ほど減少するのに対し、「絵やビデオ等を使って授業してほしい」、「会話の練習をもっと増やしてほしい」、「もっと実用的な言葉を教えてほしい」等はむしろ長期滞日者ほど増加する。これは、一方で、来日前の日本語学習環境それ自体の客観的変化があるだけでなく、他方で、来日前の学習方法の主観的評価自体、来日後の日本語能力・日本語環境との関係で変化することを示唆している。
- (2) 来日後の集合研修についても、「教科書を実用的なものにしてほしい」という要望は長期滞日者ほど減少し、逆に「もっと実用的な言葉を教えてほしい」という要望は長期滞日者ほど増加する。ここでも補注(1)の指摘はあてはまる。
- (3) ただし、職場に日本語教室が開設されている場合、滞日年数が浅いほど短期集中型が多い。すなわち教室の開設期間は2カ月以上が、1997年度来日者では回答者の80.0%と最も長く、1998年度来日者が60.5%とこれに次ぎ、1999年度来日者が33.3%と最も短い。1回の授業時間は1時間以上が、1997年度来日者では回答者の84.6%、1998年度来日者では78.4%、1999年度来日者では44.4%である。週当たりの回数は4回以上が、1999年度来日者で88.9%と最も多く、1998年度来日者では16.2%、1997年度来日者では皆無である。
- (4) 客観的な研修・技能実習(就労)時間の差だけでなく、日本語学習の動機・意欲が高まるほど時間 不足を感じる主体的な時間感覚の影響も大きい。こうした点については、杉山明(2000)162頁。
- (5)より短期的な日本語能力・自己評価の変化について、春原憲一郎(1992)59頁。
- (6) ある滞日3年目の技能実習生は、「研修期間も延ばしてもらいたい。例えば5~6年まで延長できるとか。研修期間が短いから、日本語がわかったばかりで、もう帰ることになる。再び来日するには手続きがけっこう面倒臭い。またそのまま延長してくれたら、募集機関も楽になると思うし、仕事上もトラブルが少なくなる」と語る。
- (7) ただし、職場以外(地域)に相談できる日本人がいる人は、1999年度にはゼロだが、1998年度には2. 8%、1997年度には10.4%と着実に増加している。ここにも、職場内と職場外の社会関係の質的な相違が示唆されている。

第6章 研修の評価と将来展望

最後に、今回の研修・技能実習に対する対象者自身の評価、及び、将来展望についてみていこう $(表 6-1 \sim 3)$ 。

第1節 概況

まず、「今回、日本に研修・技能実習にきて良かった」と評価する人は81.5%と、「良くなかった」 (4.4%)を大きく上回る。「また、日本に研修・技能実習に来たい」という人も58.9%と、「来たくない」(25.2%)を上回る¹⁾。

「良かった」・「また来たい」と答えた人に、その理由を自由回答で尋ねると、最も多いのは「先進技術を修得できたこと」で回答者の64.3%を占める。これに次ぎ、「日本人の勤勉な仕事ぶりから刺激を受けたこと」(23.2%) 2 、「日本語を習得できたこと」(23.2%) 3 、「経済的にメリットがあったこと」(21.4%) 4 等が続く。なお回答者は 1 人平均約 2.5 項目の理由をあげている。

- *以上の各項目の具体例は下記の通りである。
 - §先進技術を修得できたこと:「今まで見たことのないミシンを日本で見ることができたし、知らない先進技術も学ぶことができた」、「日本の様々な先進技術を勉強し、縫製技術も向上した」、「収穫はとても大きい。日本の先進技術と先進管理を学ぶことができた」、「ミシンの先進技術を勉強できた。自分のミシンの技術レベルを高めた。会社の親切な技術指導のおかげでうまくできている」、「中国にいる時、私はデザインということを考えなかった。今、デザインを見たら、けっこうわかっている」、「中国で習ったことのない先進のミシン技術・服装技術をマスターできた」、「新しい技術を学ぶことができた。例えばミシン技術や日本の管理制度です。それと日本のアパレル・服装の知識も吸収できた」、「今まで習ったことのない先進技術と管理経験をマスターし、自分の専門技術をより一層進歩させた。将来、中国に少しでも自分の力を貢献したい」、「ミシンの技術レベルが一歩高くなった。また、日本の先進の科学技術や服装関係の知識も増え、よくわかるようになった」
 - §日本人の勤勉な仕事ぶりから刺激を受けたこと:「日本人の仕事に専念する精神、『頑張り精神』を学んだ」、「日本の先進国家の奮闘精神と奉仕精神を学ぶことができた。帰国後、日本の精神を仕事に生かしていきたい」、「仕事に対する日本人の真剣さ・責任感・使命感を私達は学ぶべきだ。日本人はどんなことをしてもまじめだし、自覚性がある。社長の期待に背かない」、「日本人の仕事の態度を見習うことができた。最も敬服したのはやはり、日本人の自覚性と仕事の精神です」、「日本人のまじめさ・公私明確・細かさ・厳格さ・迅速さを学ぶことができた。中国は日本人に軽蔑されないように、こうした日本のすばらしい所を学んで、もっとよい国を創らなければならない」、「仕事に対する日本人の態度と精神に感動した。見習うべきだと思った。仕事に対して立派な上に一層立派にする日本人の心構えが身にしみてよく分かった」、「仕事に対する管理制度や真剣な姿勢も中国と格段に違うことがよくわかった」
 - §日本語を習得できたこと:「日本語を多少マスターできた。いつか役に立つかもしれない」、 「日本語が少しできる程度から、もっと理解できるようになった」、「最大の収穫は日本語を少 しでもしゃべれるようになった。日本語を勉強することによって、日本の風俗と習慣がわかる ようになったし、仕事にもよい基礎をつけられた」、「日本語の教育によって、私達は日本語を 身につけた。これから日本だけではなく、中国でも役に立つと思う」
 - §経済的にメリットがあったこと:「経済面で中国にいるよりいい。少し金銭収穫もできた」、「(技術も身につけたし)金も儲けた。これで帰国後、工場を開くことができる。工場を作る

(2)

縫製業の中国人技能実習生・研修生における日本語習得と社会諸関係に関する実証研究

表6-1 研修	技能実習の評価と将来展望	単位:人(%)
	上日本語会話	
<u> </u>	A = A = A = A = A = A = A = A = A = A	III層 IV層 IV層
全よかった		55(82.1) 64(72.7) 220(81.5)
体よくなかった	(2.1) (3.1) (3.2) (3.2) (3.2) (3.2) (3.2) (3.2)	2(3.0) 4(4.5) 12(4.4)
体よくなかった 評その他	(0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0) (0, 0)	0(-) 2(2.3) 2(0.7)
備N A		10(14.9) 18(20.5) 36(13.3)
冉帝望する	4(36.4) 67(63.2) 72(67.9) 12(35.3) 0(-) 4(33.3) 45(71.4) 36(69.2) 3	39(58. 2) 39(44. 3)(159(58. 9)
来希望しない	$ \vec{3}(\vec{27},\vec{3}) \vec{21}(\vec{19},\vec{8}) \vec{18}(\vec{17},\vec{0}) \vec{21}(\vec{61},\vec{8}) \vec{1}(100,0) \vec{4}(\vec{33},\vec{3}) \vec{12}(\vec{19},\vec{0}) \vec{12}(\vec{23},\vec{1}) $	9(13.4) 35(39.8) 68(25.2)
日その他	3(27.3) 7(6.6) 7(6.6) 0(-) 0(-) 0(-) 3(4.8) 4(7.7)	9(13.4) 1(1.1) 17(6.3)
IN A	1(9.1) 11(10.4) 9(8.5) 1(2.9) 0(-) 4(33.3) 3(4.8) 0(-) 1	10(14. 9) 13(14. 8) 26(9. 6)
職元の職場 業日本関係転職	5(45.5) 52(49.1) 37(34.9) 26(76.5) 0(-) 4(33.3) 25(39.7) 22(42.3) 2	26(38.8) 51(58.0) 1 24(45.9)
業日本関係転職	幽 4~36.4~27~25.5~37~34.9~1~~2.9~0~0~~~3.3~25.0~21~33.9~18~34.6~1	19(28. 4) 14(15. 9) 72(26. 7)
展起業	0(-) 12(11.3) 11(10.4) 3(8.8) 0(-) 0(-) 7(11.1) 8(15.4)	6(9.0) 5(5.7) 26(9.6)
業日本関係転哨 展起業 望その他	1	9(13.4) 9(10.2) 34(12.6)
N A	1 (9.1) 8 (7.5) 8 (7.5) 0 (-) 1 (100.0) 3 (25.0) 2 (3.2) 3 (5.8)	5(7.5) 9(10.2) 21(7.8)
計		67(100, 0) 88(100, 0)£70(100, 0)
資料・宝能調本	ことの存成	

資料:実態調査より作成 注:日本語会話:Aランク=日常会話に不自由しない。Bランク=直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。Cランク=あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる。Dランク=ほとんど会話ができない。 社会関係:I層=何でも気楽に話せる日本人がいる。Ⅱ層=困ったとき、相談できる日本人がいる(I層を除く)。Ⅲ層=毎日、話をする日本人がいる(I層・Ⅱ層を除く)。Ⅳ層=上述の関係がすべて「いない」。 再来日=「あなたは、またチャンスがあれば、日本に研修に行きたいと思いますか」 職業展望=「あなたは、帰国後、どんな仕事をしようと思っていますか」:元の職場=元の職場・職種に戻る。日本関係転職=日本と関係する職場に転職したい。起業=自分で事業を起こしたい。

表6-2 研修・技能実習体験	を通じて学んだこと(回答者:自由回答を分類)	単位:人(%)
	出身企業	社会関係 計
	<u> 日中合弁 中国系 1999年 1998年 1997年 A ランク B ランク C</u>	ランク Dランク I 層 I I 層 I I I 層 I I I I I I I
先進技術 日本人の勤勉精神	12(63.2) 23(65.7) 19(76.0) 14(66.7) 3(30.0) 0(-) 13(65.0) 18	(62.1) $4(100.0)$ $7(63.6)$ $14(73.7)$ $7(50.0)$ $8(66.7)$ $36(64.3)$
日本人の勤勉精神	$\begin{bmatrix} 6(31,6) & 6(17.1) & 4(16.0) & 5(23.8) & 4(40.0) & 1(100.0) & 4(20.0) & 8 \end{bmatrix}$	(27.6) (27.6) (27.3) (27.3) (27.3) (27.3) (27.3) (27.3)
日本人の礼儀・親切・やさしさ	5(26.3) 5(14.3) 9(36.0) 1(4.8) 1(10.0) 0(-) 3(15.0) 6	(20.7) (25.0) (21.4) (25.0) (21.4) (25.0)
日本の文明・清潔・秩序・便利さ	i 77 36 8N 47 11 4N 67 24 AN 27 9 5N 37 3A AN AT - N 37 15 AN 8	$(27.6) \ 0(-) \ 6(54.5) \ 3(15.8) \ 0(-) \ 2(16.7) \ 11(19.6)$
日本人とので流 日本の景色見学・旅行 その他、日本の経済・社会・文化 日本語能力	7 (36, 8) 4 (11, 4) 6 (24, 0) 2 (9, 5) 3 (30, 0) 0 (-) 3 (15, 0) 8 2 (10, 5) 5 (14, 3) 4 (16, 0) 2 (9, 5) 1 (10, 0) 0 (-) 4 (20, 0) 2	(-6.9) (-6.9) (-25.0) (-27.3) (-27.3) (-27.3) (-27.3)
日本の景色見学・旅行	0(-) 3(8.6) 1(4.0) 2(9.5) 0(-) 0(-) 2(10.0) 1	$(3.4) \ 0(-) \ 0(-) \ 2(10.5) \ 1(7.1) \ 0(-) \ 3(5.4)$
その他、日本の経済・社会・文化 日本語能力	4(21. 1) 9(25. 7) 4(16. 0) 9(42. 9) 1(10. 0) 0((24.1) $0(-1)$ $2(18.2)$ $8(42.1)$ $3(21.4)$ $1(8.3)$ $14(25.0)$
日本語能力	4(21.1) 8(22.9) 4(16.0) 7(33.3) 2(20.0) 0(-) 6(30.0) 7	(24.1) 0(-) 0(-) 8(42.1) 1(7.1) 4(33.3) 13(23.2)
金銭∙経済収入	4(21.1) 8(22.9) 4(16.0) 5(23.8) 3(30.0) 0(—) 4(20.0) 7	(24.1) (25.0) (27.3) (21.1) (21.4) (21.4)
自立·素質向上·忍耐力·成熟	2(10,5) 9(25,7) 4(16,0) 4(19,0) 3(30,0) 0(—) 3(15,0) 6	(20.7) 2(50.0) 5(45.5) 2(10.5) 4(28.6) 0(-) 11(19.6)
視野拡大・新たな生活体験	1(5.3) 3(8.6) 1(4.0) 2(9.5) 1(10.0) 0(—) 0(—) 4	(13.8) 0 $(-)$ 1 (9.1) 2 (10.5) 0 $(-)$ 1 (8.3) 4 (7.1)
自立・素質向上・忍耐力・成熟 視野拡大・新たな生活体験 人間関係(中国人を含む)	0(-) 4(11.4) 1(4.0) 2(9.5) 1(10.0) 1(100.0) 1(5.0) 1	(3.4) 1(25.0) 1(9.1) 1(5.3) 0(-) 2(16.7) 4(7.1)
āt	29 (2 (100, 00) 25 (100, 00) 1 (100, 00) 10 (100, 00) 15 (100, 00) 25 (100, 00) 19 (100, 00) 19 (100, 00) 19 (100, 00)	(100.0) 4(100.0) 11(100.0) 19(100.0) 14(100.0) 12(100.0) 156(100.0)

斗:実態調査より作成 : 出身企業・日本語(会話)能力で「その他・不明」は表示していない。 日本語会話:Aランク=日常会話に不自由しない。Bランク=直接、仕事に関係する日本語なら理解できる。Cランク=あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる。Dランク=ほとんど会話ができない。 社会関係:I層=何でも気楽に話せる日本人がいる。II層=困ったとき、相談できる日本人がいる(I層を除く)。Ⅲ層=毎日、話をする日本人がいる(I層・Ⅱ層を除く)。Ⅳ層=上述の関係がすべて「いない」。

表 6 - 3 研修・技能実習の評価と将来展望	単位:人(%)
来日前の職場	<u>来日年次</u> 計
日中合弁 中国系企業その他	1999年 1998年 1997年 NA
全よかった 105(79.5)102(85.7) 13(68.4) 体よくなかった 6(4.5) 6(5.0) 0(-)	1 87 (78. 4) 90 (84. 9) 41 (85. 4) 2 (40. 0) 220 (81. 5)
	7 (6.3) 2 (1.9) 2 (4.2) 1 (20.0) 12 (4.4)
評さる他 0(-) 2(1.7) 0(-)	(0.7)
一個NA 21(159) 9(76) 6(316)	1 15(13, 5) 14(13, 2) 5(10, 4) 2(40, 0) 36(13, 3)
再希望する 来希望しない 日その他 15(3.8) 9(7.6) 3(15.8)	67(60.4) 62(58.5) 28(58.3) 2(40.0) 159(58.9)
再希望する 86(65.2) 68(57.1) 5(26.3) 来希望しない 27(20.5) 36(30.3) 5(26.3)	31(27.9) 24(22.6) 10(20.8) 3(60.0) 68(25.2)
日その他 5(3.8) 9(7.6) 3(15.8)	4(3.6)10(9.4)3(6.3)0(-)17(6.3)
11 A 14 10.0 A 0 3.0 A 0 31.0 A	9(8.1)10(9.4)7(14.6)10(-126(9.6)
職元の職場 72(54.5)44(37.0)8(42.1) 業日本関係転職 26(19.7)44(37.0)2(10.5)	53(47.7) 52(49.1) 15(31.3) 4(80.0) 124(45.9)
業日本関係転職 26(19.7) 44(37.0) 2(10.5)	34(30.6) $22(20.8)$ $16(33.3)$ $0(-)$ $72(26.7)$
展起業 12(9.1) 12(10.1) 2(10.5)	$8(7.2) \overline{10}(9.4) 8(16.7) 0(-126(9.6)$
業日本関係転職 足起業 12(9.1) 12(10.1) 2(10.5) 望その他 16(12.1) 13(10.9) 5(26.3)	11(9.9) 17(16.0) 5(10.4) 1(20.0) 34(12.6)
NA 9(6.8) 9(7.6) 3(15.8)	12(10.8) 5(4.7) 4(8.3) 0(-)21(7.8)
# 132(100.0)119(100.0) 19(100.0)	111(100, 0)106(100, 0) 48(100, 0) 5(100, 0)270(100, 0)
資料:実態調査より作成	
注:再来日=「あなたは、またチャンスがあれば、	日本に研修に行きたいと思いますか」 としようと思っていますか」:元の職場=元の職場・職
職業展望=「あなたは、帰国後、どんな仕事を 種に戻る。日本関係転職=日本と関係する期	をしようと思っていますか」:元の職場=元の職場・職
種に戻る。日本関係転職=日本と関係する職	能場に転職したい。起業=自分で事業を起こしたい。

後ろ盾ができた」、「金銭の収穫があり、経済的に楽になった。何しろ収穫はいっぱいです」、 「研修はきれいな看板だけです。実のところ金儲けです。大金を手に入れたのが最大の成果」、 「大いに金を儲けた。これからもっと国と家に金を稼ぎたい」

総じて、今回の研修・技能実習は、対象者達の人生の転機として、また将来展望にとって肯定的に 評価されているといえよう。

帰国後の希望を尋ねると、「元の職場・職種に戻りたい」人が45.9%、「日本と関係する職場に転職したい」人が26.7%、「自分で事業を起こしたい」人が9.6%である。

第2節 日本語能力・社会関係との関連

ただしこうした評価も、日本語能力によって大きく異なる。すなわちまず、「日本と関係する職場に転職したい」と考える人は、日本語(会話)能力がAランクの人では36.4%、B・Cランクでは30.2%を占めるが、Dランクでは2.9%にとどまる。また、「今回、日本に研修・技能実習にきて良かった」と感じている人も、日本語(会話)能力がAランクの人では90.9%、B・Cランクでは83.0%を占めるが、Dランクでは79.4%にとどまる。Dランクの人では、「元の職場・職種に戻りたい」人が76.5%と多く、「日本に研修・技能実習にきて良くなかった」が17.6%と一定の位置を占める。Dランクの人の中には、「収穫はあまりない。毎日働くばかりで日本語がよくわからず、殆どしゃべらないから」、「研修・実習は私にとってとてもつまらなくて苦しいことです。日本で生活するには日本語が一番重要だとわかるようになったが、まじめに勉強してこなかったことを後悔している」、「言葉の障害で日本人と殆どコミュニケーションを取っていないから、収穫は何もない」等の声がある。

日本人との社会関係によっても、研修・技能実習の意義や評価は大きく変わる。まず、「元の職場に戻りたい」という人は、社会関係が最も豊かな I 層で29.7%と最も少なく、I 層・II 層で40.3%、I 層で58.0%と最も多い。逆に、「日本と関係する職場に転職したい」・「自分で事業を起こしたい」と考える人は、I 層で44.4%と最も多く、I 層・II 層で42.9%、I 層で21.6%と最も少ない。また、「今回、日本に研修にきて良かった」と感じる人も、I 層では92.1%と最も多く、I 層・II 層で82.4%、そしてI 圏では72.7%にとどまる。

総じて、日本語(会話)能力が高いほど、また日本人との社会関係が豊かであるほど、今回の研修 ・技能実習を肯定的に、しかもより大きな人生の転機として捉えているのである。

ただしその上で、「今回、日本に研修・技能実習にきて良かった| と感じている人にその理由をた

ずねると、日本語能力別と社会関係別で、やや異なる傾向が見てとれる。

すなわちまず、日本語(会話)能力別では、それが低い人ほど「経済的にメリットがあったこと」、「日本人の礼儀正しさ・親切さ・やさしさを学んだこと」、「自立・忍耐力・素質の向上」等をあげる人が多い。言葉の不自由さの中で様々な忍耐・我慢を体験し、同時に日本人の配慮・親切にも触れ、そして経済的利益を追求している姿が伺える。

- *経済的メリットの具体例は既述したが、その他の「良かった」内容の具体例は下記の通りである。 §日本人の礼儀正しさ・親切さ・やさしさを学んだこと:「日本人は皆、礼儀正しい。日本人の 優しさと文明的な礼儀を身をもって体験できた」、「日本人は礼儀正しく、人を助ける。日本人 の礼儀ある謙譲の態度は私に深い印象を残した」、「日本は礼儀を重視する国家です。日本人は 皆、礼儀正しく、やさしい。これから私がどのように他人と付き合うかという上で、非常に勉 強になった」、「日本人は皆、礼儀正しく、教養がある。日本人がとても親切に人を助けること を見習うことができた」、「中国は日本と比べものにならない。礼儀正しさや人に対する態度・ やさしさ等々。私はいろいろ勉強できた。中国は、いろんな面で日本を学ぶべきだ」、「私は日 本人の謙譲と団結をとても羨ましく思う。日本は非常に勤勉で和気藹々の民族だ」
 - §自立・忍耐力・素質の向上:「自立能力が育てられ、自分を鍛えることができた。体力の極限や精神の苦しみ、様々な辛抱も味わうことができた。自我超越と真の自立ができた。人生にとって大きなチャレンジのチャンスだった」、「忍耐力が育てられたし、人生の辛さと歳月の無情さを味わった。まじめに勉強して初めて成長できるということを実感した」、「自分の精神文明の素質を高めた。キャリアを積み、一層成熟し、人生に対する考えも明るくなった」

これに対し、日本人との社会関係別にみると、それが豊かになるほど、「経済的にメリットがあったこと」をあげる声が多く、また社会関係が最も豊かな I 層では特に「日本社会の文明性・清潔・便利さを学んだこと」、「日本人との交流を深めたこと」、「自立・忍耐力・素質の向上」等をあげる人が多い。いわば社会関係の豊かさは、経済的メリットも含め、多様な質のメリットの実感を支えているのである。 I 層では回答者 1 人当たり平均 3 項目、 II 層では 2 . 8 項目のメリットをあげているが、III 層・IV 層では 2 項目のメリットしかあげられていない。 IV 層には、「仕事ばかりで日本人とのつきあいも何もないから、収穫とかは感じていない」との声もある。

- *「日本社会の文明性・清潔・便利さを学んだこと」、「日本人との交流を深めたこと」の具体例は下記の通りである。
 - §日本社会の文明性・清潔・便利さを学んだこと:「日本の文明や清潔さを学んだ。日本は私の 想像より美しかった。日本の交通はとても便利だ」、「良好な生活環境を感じた。また生活面で 日本人の自覚性が強いと感じた。ゴミも捨てない」、「日本社会の先進性が見えた。発達した交 通事業やきれいな街作りも見習う必要がある」、「日本人の文明素質や日本の環境衛生等、今回 の研修を通して、高度文明社会の生活を体験できた」
 - §日本人との交流を深めたこと:「日本語で日本人と話ができた。日本人とよい関係を作れたし、 たくさんの日本人の友達ができた」、「まだ浅いが、日本人と交流する機会を得てよかった」

さらに、「再度、チャンスがあれば日本に研修に来たいか?」という質問に対しても、日本語能力 別と社会関係別で、異なる特徴がある。

すなわち日本語(会話)能力別にみると、「また、来たい」という人は、B・Cランクで65.6%と最も多く、Aランクで36.4%、Dランクで35.3%と少なくなっている。またDランクでは「もう来たくない」人が61.8%と多く、Aランクでは「もう来たくない」(27.3%)と「その他」(27.3%)に分

神戸大学発達科学部研究紀要 第9卷第1号

散している。いわば、Dランクでは、今回の研修の苦痛・苦労から「もう来たくない」と感じている 人が多いのに対し、Aランクでは、今回の研修で十分に学んだので、再来日よりむしろ新たな将来展 望に関心が向き、将来展望とのかかわりで必要があれば再来日するし、なければ再来日の必要はない と判断していると思われる。

一方、日本人との社会関係別にみると、社会関係が豊かな人ほど、「また、来たい」という人が多く見られる。そのように感じている人は、I層では71.4%、Ⅱ層では69.2%、Ⅲ層では58.2%、Ⅳ層では44.3%である。ここにもまた、日本語能力とはまた別の、日本人との社会諸関係の独自の意義・重要性が現れている。

なお、日本語(会話)能力がBランク(直接、仕事に関係する日本語なら理解できる)とCランク(あいさつ・買い物など簡単な会話ができる)の人に限ってみると、むしろCランクの人の方が、「今回、研修・技能実習にきてよかった」、「日本と関係する職場に転職したい」、「また、来たい」と感じている人がいずれも相対的に多い。前述のごとく、BランクとCランクは単なる日本語(会話)能力の水準というより、利用場面・語彙の質的差異と捉えられていることが、ここでもまた伺える。しかも、単に直接の専門・仕事に関する日本語より、むしろ日常生活でのコミュニケーションにかかわる日本語の習得が、研修・技能実習に対する肯定的評価に結びついているのである。

第3節 日中合弁企業・中国系企業出身者別にみた評価と将来展望

来日前の職場によっても、研修・技能実習の評価や将来展望には、一定の違いがみられる。

帰国後の希望をみると、まず、日中合弁企業出身者では「元の職場・職種に戻りたい」が54.5%と特に多い。これに対し、中国系企業出身者では「元の職場・職種に戻りたい」人と「日本と関係のある職場に転職したい」人がいずれも37.0%で相半ばしている。

★「日本と関係のある職場に転職したい」具体例は、下記の通りである。

「研修という有利な条件を利用して日本語と先進技術を身につけた。帰国後、研修に関連する職場に移って仕事がしたい」、「日本語で交流できるし、自分の特徴も発揮できる日本会社に移りたい」、「日本でいろんなミシンの技術を学んだし、日本語も少しできるようになったから、日本に関連する会社に転勤したい」、「せっかく日本で研修・実習したのだから、帰国後は今の社長と貿易をやりたい」

「将来、また日本に研修・技能実習に来たい」という人は、日中合弁企業出身者では65.2%を占めるが、中国系企業出身者では57.1%にとどまる。逆に、「来たくない」という人は、日中合弁企業出身者では20.5%だが、中国系企業出身者では30.3%を占める。

そして、「今回、日本に研修・技能実習にきて良かった」と感じている人は、日中合弁企業出身者が79.5%とやや少なく、中国系企業出身者では85.7%と特に多い。

しかも、来日して「良かった」理由の内実も、日中合弁企業出身者では「日本人の勤勉な仕事ぶりから刺激を受けたこと」、「日本人の礼儀正しさ・親切さ・やさしさを学んだこと」、「日本社会の文明性・清潔・便利さを学んだこと」等、直接に日本人・日本社会との接触に伴う認識の変化をあげる人が多い。これに対し、中国系企業出身者では、「(中国人を含む)人間関係の能力が身についたこと」50 や自分自身の「自立・忍耐力・素質の向上」等、必ずしも日本人・日本社会との直接の関係性以外の体験に根ざす変化が多く指摘されている。

*「(中国人を含む)人間関係の能力が身についたこと」の具体例は下記のとおりである。 「人間関係作りだけは勉強できた。研修生はいろんな人がいるから、皆一緒に生活するのに疲れ る。だから研修にはもう来たくない」、「単身赴任で人間関係を処理する経験をマスターできた。 同じ会社に研修生・実習生合わせて29人もいる。皆、中国各地から来ているので、人間関係作りの面ではけっこう難しいし、勉強になる」、「研修は集団性ですから、いろいろ勉強になる。難しい。もう来たくない。中国人と毎日生活するのは極めて緊張する。研修生の新聞に『不団結作戦は中国の永遠の弱点』という記事があったが、私は大賛成だ」

総じて、日中合弁企業出身者では、直接に日本・日本人との接触に伴う認識の変化を経て、元の職場・職種に戻り、再度の来日を望む人が多い。これに対し、中国系企業出身者では、今回の研修・技能実習をどちらかといえば自己錬磨の機会と捉え、帰国後、日中合弁企業への転職を含む自己のキャリア・アップを考える人が多いようである。

第4節 滞日年数別にみた評価と将来展望

最後に、滞日年数別に、研修の評価と将来展望をみよう。

まず、研修・技能実習の総体的評価には、滞日年数別には、それほど顕著な差はない。ただし、「日本に研修・技能実習にきて良かった」と評価する人は、1999年度来日者では78.4%、1998年度来日者では84.9%、1997年度来日者では85.4%と、滞日年数が長くなるほど微増傾向にある。逆に、「もう日本に研修・技能実習には来たくない」という人は、1999年度来日者では27.9%、1998年度来日者では22.6%、1997年度来日者では20.8%と、滞日年数が長いほど減少している。総じて滞日年数が長くなるほど、やや肯定的評価が増加しているといえよう。

また、「来日して良かった」と感じている場合の理由では、「先進技術を修得できたこと」は1999年度来日者で最も多く、以後、滞日期間が長くなるほど減少している。これに対し、滞日期間が長くなるほど、「経済的にメリットがあったこと」、「日本人の勤勉な仕事ぶりから刺激を受けたこと」、「自立・忍耐力・素質の向上」等、理由の多様化がみられる。

将来展望としては、滞日年数が長くなるほど、「自分で事業を起こしたい」人が多くみられる(1999年度来日者では7.2%、1998年度来日者では9.4%、1997年度来日者では16.7%)。また特に、滞日3年目の1997年度来日者では、「元の職場・職種に戻りたい」人が31.3%と、「日本と関係ある職場に転職したい」という人(33.3%)よりも少なくなっている。

とりわけ中国系企業出身者では、滞日年数が長くなるほど、「元の職場に戻りたい」人の減少、及び、「日本と関係ある職場に転職したい」・「自分で事業を起こしたい」という人の増加が顕著である。しかし日中合弁企業出身者においても滞日年数が長くなるほど、やはり「日本と関係ある(他の)職場に転職したい」・「自分で事業を起こしたい」等の希望は増加しているのである(表6-4)。

表 6-4 出身公	È業別・来E	日年次別にみ	ケた将来展望	(MA)	
来日年次	1999年	1998年	1997年	NA	計
日元の職場 中日本関係転職	21(29.2)	38(52.8)	11(15.3)	2(2.8)	72(100.0)
中日本関係転職	11(42.3)	8(30.8)	7(26.9)	0(-)	26(100.0)
合起業	5(41.7)	4(33.3)	3(25.0)	0(-)	12(100.0)
弁その他	7(43.8)	6(37.5)	2(12.5)	1(6.3)	16(100.0)
企NA	8(88.9)	0(-)	1(11.1)	0(-)	9(100.0)
業計	49(37.1)	56(42.4)	24(18.2)	3(2.3)	<u>132(100.0)</u>
中元の職場	30(69.8)	12(27.9)	(1(2.3)	1(2.3)	43(100.0)
国日本関係転職		14(31.8)	9(20.5)	0(-)	44(100.0)
系起業	3(23.1)	5(38.5)	5(38.5)	0(-)	13(100.0)
企その他	2(15.4)	9(69.2)	2(15.4)	0(-)	13(100.0)
業N A	4(44.4)	3(33.3)	2(22, 2)	0(-)	9(100.0)
<u> </u>	56(47.1)	43(36.1)	19(16.0)	1(0.8)	(119(100,0)
資料:実態調查。	とり作成				

主: 来日年次不明者等は除外。 元の職場=元の職場・職種に戻る。日本関係転職=日本と関係する 職場に転職したい。起業=自分で事業を起こしたい。

神戸大学発達科学部研究紀要 第9巻第1号

《補注》

- (1) 研修を通して得たこと、及び、それに対する自己評価については、浅野慎一(1995)300~311頁、同 (1997)295~296·303~304·第3部。なお「また日本に来たい」と答えた人は女性で60.2%と特に多く、男性では42.9%と少ない。
- (2) 労働観の変化については浅野慎一(1995)300~304頁、同(1997)213~218頁、劉永鴿(1994)162~167頁。
- (3) 帰国後の日本語の必要性・使用状況については、鶴尾能子・関正昭・石渡博明(1977)75~76頁等。
- (4) 経済的メリットに関連して、「残業時間と残業代をもっと増やしてほしい。残業代が決まっていないし安い」、「中国が(経済的に)強くなってほしい。そうすれば日本人が中国に出稼ぎに行く」、「日本で働くには技術のレベルを問わず仕事をやればOKだ。また来日して1年でも3年でも待遇・給料は全く同じでよくない。試験等で技術レベルを認定して差をつけてほしい」等の声がある。
- (5) 研修生相互の関係でのトラブルについては、水野マリ子(1992)13頁等。

終章 まとめにかえて

以上、縫製業における中国人技能実習生・研修生の日本語習得と社会諸関係の実態、及び、そこでの諸問題を分析してきた。最後に、序章で行った問題提起に沿って簡単に総括しよう。

(I) 現行制度では、日本語教育は、研修には義務づけられているが、技能実習では要件とされていない。確かに本稿の事例に即してみても、技能実習生(滞日2・3年目)に比べ、研修生(同1年目)の日本語能力は低く、研修生に日本語教育を義務づけることには一定の根拠があるように見える。しかし、技能実習生も、日本語・言葉の壁に直面している事実は否めない。過半数の技能実習生が、直接、仕事に関わる日本語ができるようになるのは滞日3年目になってからである。いいかえれば滞日3年目でもそうしたレベルに達しない技能実習生も少なくない。また、「この半年間、言葉・日本語の問題で困ったことがある」人の比率は、研修生と技能実習生で顕著な差はない。いわば技能実習生における日本語能力の向上は、言葉の不自由さを払拭するほどのレベルではなく、技能実習生は、研修生とは異なる質・水準で新たな日本語・言葉の障害に直面しているのである。

しかも技能実習生、特に滞日2年目のそれは、研修生以上に、日本語学習意欲が高い。彼女/彼らは意欲的に日本語を独習し、また日本語教育に対しても具体的で多様な改善要望をもっている。

さらに受入企業・職場も、技能実習生に対して、研修生と区別せず、あるいは研修生より一層充実 した形で、日本語教室を設置している。逆に技能実習生向けに日本語教室を設置していない職場は、 研修生に対してもそれを設置していない場合が多い。

以上のように、技能実習生は、研修生と同様あるいはそれ以上に、日本語習得・教育を必要としており、また受入職場でもそれに対応している。研修生だけに日本語教育を義務づける現行制度は、実態と乖離しているといわざるを得ない。現行制度は、主に入国管理の観点から、日本語教育の有無をもって実質的就労か否かの基準とみなしている。すなわち、研修には就労と区別するために日本語教育を厳格に課し、雇用関係にある技能実習には日本語教育を義務づけていない。また研修生に関する従来の社会科学的調査研究の多くも、こうした入国管理的観点を無批判に共有し、日本語教育の欠落・不十分さを一つの根拠として、研修が実質的就労の隠れ蓑となっていることを"実証"してきた。しかし現実には、本稿で明らかにように、日本語教育の必要性と雇用関係の有無(=実質的就労か否か)は本来、無関係である。

(Ⅱ) 研修生を対象とした従来研究の多くは、日本語教育をOFF-JT(教室内での座学、あるいは

せいぜい教室でのカリキュラムの一環としての地域の日本人との交流)の典型と捉えてきた。確かに、本稿の分析をふまえても、来日前・来日後を問わず、日本語教室は、研修生・技能実習生の日本語能力の向上に有効に作用している。また教室の少なさ・短期集中・多人数クラス・中国語のわかる日本語講師の不在等、既存の日本語教室には改善すべき課題も多い。

しかし同時に、研修生・技能実習生にとって、日本語能力向上の最大の契機は、日本語教室ではなく、職場の日本人との交流・社会関係である。職場の日本人との社会関係の中で、研修生・技能実習生は日本語の壁を実感し、日本語の学習を切実に動機づけられ、そして筆談や身ぶり手ぶりを含むコミュニケーションを図り、徐々に日本語を習得している。この事実をふまえれば、日本語教室においても、職場で気軽に質問したり、職場の日本人とコミュニケーションを図れるような、基礎的で汎用性のある日本語の教育が特に重要であろう。

また、研修生・技能実習生の多くは、本やテープ、テレビ等を用いて、日本語を意欲的に独習している。そして日本語教室の存在は、学習方法の指導や学習意欲の刺激を通して、独習を促進する重要な契機でもあった。

以上のように、教室での日本語教育は、教室内・授業時間で完結するものではなく、研修生・技能 実習生のトータルな生活過程・社会諸関係の中で進む日本語習得のプロセスの一環・契機にほかなら ない。その意味で、生活上での体験や疑問を日常的にフィードバックしうるよう、各職場や地域に日 本語教室を設置・拡充することが極めて有効であろう。また、職場の日本人に対して、外国人とコミュ ニケーションをとるための基礎的な「日本語教育(文脈の明示、話題や単語・文型の選択、繰り返し や確認の方法等の教育)」を実施することも重要であろう。

(Ⅲ) さて、研修生の日本語教育に関する従来研究の多くは、日本語能力の向上と日本人との円滑な社会関係の形成が相互規定的で、しかもそれらが現実の諸矛盾・困難の克服にとって重要であると、暗黙裡に想定してきた。確かに本稿の事例に即してみても、研修生・技能実習生の日本語能力向上の最大の契機は、前述の如く、職場の日本人との交流・社会関係である。同時に、日本人との社会関係形成の最大のネックは、日本語・言葉の壁である。そして日本語を駆使して日本人と積極的に交流し、その中でますます日本語能力を高めている研修生・技能実習生がいる一方、日本語能力の制約から日本人との交流に消極的になり、その結果、ますます日本語能力の向上を難しくするといった悪循環に陥っている研修生・技能実習生もみられる。さらにまた、日本語能力の向上に伴い、「言葉・日本語の問題で困ること」が一定程度減少することも事実である。

しかしそれにもかかわらず、「困った時、相談できる」・「何でも気軽に話せる」日本人との関係の有無は、研修生・技能実習生の日本語能力の水準とは無関係である。また、日本語能力が低い人ほど、今回の研修・技能実習を通して「日本人の礼儀正しさ・親切さ・やさしさを学んだ」と感じている。日本語能力の向上は、筆談やボディ・ランゲージの代替として機能するが、それが社会関係の深さ・豊かさに直結するとは限らないのである。さらに滞日2年目には、日本語能力の向上と日本人との社会関係の深化が同時進行するが、しかし滞日3年目には、日本語能力は向上しても、日本人との社会関係は逆に希薄化する傾向もある。総じて、日本人との深い社会関係の形成には、双方の忍耐強さ・信頼関係・人間的交流への意欲、それらを支える時間的・期間的ゆとり等、日本語能力以外の多様な諸条件が大きな影響を及ぼすのである。

しかも日本語能力の向上は、「言葉・日本語の問題で困ること」は減少させても、それ以外の実質的諸矛盾を解決しない。例えば、日本人従業員が自らのミスを研修生・技能実習生に責任転嫁するのは、そうしなければ自己責任を問われるからであって、研修生・技能実習生の日本語能力が低いためではない。経営者が、研修生・技能実習生に職場以外の日本人との交際を制約しようとするのは、「逃亡=不法残留」を警戒しているのであって、これも日本語能力の問題ではない。日本語による言

い訳や弁解がいくら明晰に理解できても、現実の矛盾は解決せず、むしろ不信感を募らせる。「誤解」の解消が、明確な利害対立を露呈させる場合もある。日本語での表面的・形式的なコミュニケーションが可能になるほど、一層「深く知り合う」ことの困難さを強く感じるといったジレンマも発生する。以上の諸点をふまえれば、研修生・技能実習生の日本語教育・習得は、単に形式的・表面的な意志疎通・異文化理解のテクニックとしてではなく、実質的な矛盾とその克服の営為、及び、それに向け

疎通・異文化理解のテクニックとしてではなく、実質的な矛盾とその克服の営為、及び、それに向けた全人格的な協働・連帯の一環として把握される必要がある。職場の日本人に対しても、単に外国人と意志疎通する際のテクニックとしての「日本語教育」や異文化理解教育にとどまらず、同じ日本社会に暮らす人間、同じ職場に働く労働者として共有する矛盾とその克服、それに向けた協働・連帯の一環としての「言葉」の習得・教育が重要であろう。問題は、「いかに語るか」以前に、まず「何を語るか」であり、それにふさわしい日本語が教育・習得されているか否かである。

(IV) このことは、「実用的な日本語教育」の論点とも深く関わる。従来研究では、研修生の日本語教育における「実用性」が重視され、その上で「実用性」の内実をめぐり、一方で、実際の職場で用いられる専門用語・職業語等にきめ細かく対応する必要性が、他方で、できるだけ汎用性のある基礎的な日本語能力の育成の重要性が、それぞれ指摘されてきた。

本稿の分析をふまえても、確かに、研修生・技能実習生が日本語教育に求めている最大の要素は、 来日前後を一貫して「実用性」であった。またそこには、上述の職場の専門性に密着した「実用性」 と汎用性のある基礎的な「実用性」の両方が併存していた。

しかし、現実の研修生・技能実習生が想定している「実用性」は、さらに一層多義的である。後述する如く、研修生・技能実習生の属性・資質は多様で、また滞日年数に伴って諸個人の生活・意識も変化する。そうした中で、「実用性」の内実も多様かつ時系列的に変化することは自明であろう。来日前・来日直後には、日本語学習、とりわけ不慣れな机上学習に辟易し、現場での労働(手労働)こそが「実用的」な世界であり、日本語・机上学習そのものを「非実用的」であると軽視する姿勢も垣間見られる。また、日常会話の教育を「実用的」と感じる場面もあれば、会話の自信を支える文法の教育を「実用的」と感じる局面もある。総じて、「実用的な日本語教育」の成否は、研修生・技能実習生の諸個人の生活・意識やその変化をトータルに把握し、多岐にわたる「実用性」の中から、「今、ここ」で求められている実用性が何かを明確にしうるか否かにかかっているといえよう。

従って、職場で用いられている専門用語・職業語等は、ある特定の局面での「実用性」でしかない。確かにそれが「実用的」で必要とされる局面はある。しかし、それを過度に強調することは危険である。現に来日前は日本語学習を「研修のための手段」と割り切っていた人より、多様かつ主体的な学習動機を併せ持っていた人の方が、高い日本語能力に到達している。来日後も、「直接、仕事に関係する日本語なら理解できる(Bランク)」人より、むしろ「あいさつ・買い物など、簡単な会話ができる(Cランク)」人の方が、日本人と深い交流・社会関係を形成している。また相対的に時間的ゆとりがあり、日本語を独習している人にはCランクの人が多く、研修一就労に追われて時間にゆとりがない人ほど、仕事に限定した日本語能力(Bランク)や「ほとんどできない(Dランク)」が多くなっている。そしてこうした社会関係の形成や時間的ゆとりは、中長期的には、職場での専門性の円滑な修得、日本語能力の一層の向上、さらに研修・技能実習体験に対する肯定的な評価を支えている。こうした基礎的な日本語能力の形成を欠いたまま、専門用語・職業語等の教育がなされても、それは極めて短期的で脆弱な成果しかもたらさないと思われる。

研修生・技能実習生が、特定の職業的技術の学習主体である以前に、まず一人の生きた人間である という原点を踏まえ、生活・意識やその変化をトータルに把握し、そこに内在する多様な日本語習得 の芽を紡いでいくことが必要であろう。

(V) 最後に、研修生・技能実習生の増加、及び、滞日期間の延長は、属性や資質の多様化や諸個

人の変化を不可欠に伴っている。従来研究においても、研修生の国籍・学歴・文化・専門性等の多様性はしばしば強調されてきた。しかしそれらは多くの場合、研修生受入専門機関や日本語講師の眼差しから見た「多様性」であった。それに対し、ここで指摘する多様性や変化は、むしろ個々の受入職場の日本人や研修生・技能実習生自身からみたそれである。

すなわちまず、本稿の事例では、研修生・技能実習生の専門性は縫製技術であり、基本属性は中国 人・農村出身者・女性・中学卒業者が多く、決して「多様」とはいえない。

しかしそれにも関わらず、研修生の受入数が年々増加するに伴い、一方で来日前の受入準備体制が徐々に整備され、他方で選抜基準が徐々に緩和されている事実は否めない。そうした中で、一方で、来日前に「日本語を学びたくても学べなかった」という客観的条件は減少し、日本語教室に通った人も増加している。しかし他方で、来日が決まっても、特に明確な理由もなく日本語を学ばなかった人も増加し、日本語の独習率も低下している。また、研修生の増加は、従来の日中合弁企業出身者に加え、中国系企業出身者の顕著な増加をもたらしている。本稿の事例では、中国系企業出身者は、日中合弁企業出身者に比べ、来日前に日本語との接触機会が少なく、来日後も日本人との社会関係の形成、日本語の習得等にやや消極的である。研修・技能実習に求める成果や将来展望にも、中国系企業出身者と日中合弁企業出身者では、一定の相違がある。

また、研修生・技能実習生諸個人に即してみても、来日前と来日後、また3年間の滞日期間の節目毎に、その生活や意識は大きく変化する。

滞日1年目(研修生)は、深刻な言葉の壁を実感し、しかも年度末に技能実習生への移行(=滞日延長)の可否をかけた試験もあるため、日本語の学習意欲は高い。ただし、日本人との社会関係は未だ十分に形成されず、日本語教室や独習が主な学習の場となる。また、研修生自身、まだ日本語の学習方法や日本語教育の具体的な改善要望を十分に自覚・認識できず、試行錯誤の段階にある。そこで、来日直後の集合研修では不慣れな机上学習に辟易し、「早く現場で働きたい」と感じるが、しかし実際に職場に配置された後には、日本語の壁に直面し、もっと長期間の集合研修で日本語を学びたかったと考え直す場合もある。1年目の研修生は、「先進技術の習得」に主な成果を見いだしているが、しかし日本語の面では「直接、仕事に関わる日本語がわかる」レベルには程遠く、その乖離・葛藤から、仕事に密着した速成的に「実用的」な日本語教育を求める傾向にある。

滞日2年目(技能実習生)には、日本語能力の向上、及び、日本人との社会関係の深化が最も相乗的に進む。日本語の学習意欲も高く、しかも独習方法や日本語教育に対する改善要望も最も具体的に認識できている。ただし、日本語習得の主な場は、日本語教室や独習から、日本人との日常的な社会関係へと移っていく。また、専門技術の習得にとどまらない多様な成果・人間的交流を求めるようになり、それと汎用性のある基礎的な日常会話能力の習得が比較的うまく噛み合っている場合が多い。

そして滞日3年目(技能実習生)になると、日本語能力はさらに向上するが、しかし、滞日期限切れが迫り、それ以上の日本語能力の向上や日本人との社会関係の深化にも限界が見えてくる。また「少し位わからないことがあっても何とかなる」といった慣れ・見切りも進む上、主な関心が帰国後の生活展望に向くことも多くなり、全体として、日本語学習や日本人との社会関係形成に消極的な態度が顕在化する。3年目には「直接、仕事に関係する日本語がわかる」レベルに過半数が到達するが、しかしもはや技能実習に求める目的・成果自体が仕事・技術に限定されず、多元的になっているため、それが日本語学習や日本人との交流を一層促進する動機・条件とは、必ずしもなりにくい。

以上のような研修生・技能実習生の資質や属性の多様化、及び、諸個人の時系列的な変化は、日本語教育のあり方にも新たな工夫・配慮を不可欠とする。とりわけ中国系企業出身者のように日本語・日本企業との関係が相対的に希薄な人々の増加、及び、技能実習制度に伴う滞日期間の延長が進めば進むほど、教室で完結する日本語教育を超え、しかも単なる「専門性・技術習得の手段」や「形式的

神戸大学発達科学部研究紀要 第9巻第1号

・表面的なテクニック」としての日本語を超え、現実の諸矛盾の克服やそれに向けた全人格的な協働と結びついた日本語の習得・教育がますます重要な意味をもってくるといえよう。

《引用・参照指示文献》

浅野慎一(1995)「中国人研修生と受入側日本人の生活と文化変容 (3)」『神戸大学発達科学部研究紀要』第 2 巻第 2 号

浅野慎一(1997) 『日本で学ぶアジア系外国人-研修生・留学生・就学生の生活と文化変容』大学教育出版 浅野慎一(1998) 「『日本で学ぶアジア系外国人』:伊藤氏の批判に応えて」『現代社会学研究』第11巻 内田賢(1991) 「研修生たちは日本で何を得たのか」今野浩一郎・佐藤博樹編『外国人研修生』東洋経済新報社 海外技術者研修協会編(1985) 『発展途上国研修生の日本体験』草思社

ケオマノータム・マリー(1992)「『研修制度』と研修生」『宇都宮大学教養部研究報告』第25号第1部

児島秀和(1992)「ある一般研修担当者のbeliefの変遷」『日本語学』明治書院10月号

駒井洋他(1992)「外国人労働者の労働及び生活実態に関する研究」手塚和彰他編『外国人労働者の就労実態』 明石書店

斎藤圀守(1991)「海外研修生を受入れて一○年」『世界の労働』第41巻第9号 杉山明(2000)「中国人研修生への日本語指導レポートとその考察」『津山工業専門学校紀要』第41号 鶴尾能子・関正昭・石渡博明(1977)「アジアの技術研修生と日本語」『日本語教育』32号 春原憲一郎(1992)「外国人研修生の評価」『日本語学』明治書院10月号 水野マリ子(1992)「総論−異文化導入教育の一環としての日本語教育−」『日本語学』明治書院10月号 宮本真−(1992)「海外研修生と日本人の異文化適応力養成について」『日本語学』明治書院10月号 劉永鴿(1994)「中国人研修生から見た日本の労働現場と日本的経営」『立教経済学研究』第47巻第3号 労働省職業能力開発局海外協力課(1990)「外国人研修生の受け入れに関する実態調査」『労政時報』第2999号